(新謎小說三冊懸賞)

以良都女

第十六號

明治二十一年十月十五日發兌

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十六號目次

家政。 妻らしい妻。安直で美衣美食を得る秘傳。女生徒の衣服粧飾。細君虎之巻。レモンの効用。

小説 空行く月第六回第七回（美妙齋）

講義。 用器畫法第八回。

雜纂。 露國育兒の奇法。婦女のいましめ。

近事批評。 洋服案討議。

近刊批評。 文覺上人勸進帳。新婦人。君子と淑女。

流行。 薄紅色の服‖帯地‖袷地縫‖袖口へ丁子龍腦麝香を込むと‖銀製御所櫻の簪‖つかみざし

化粧。 歯の色の黄色なのを除く法。爪をうるはしくそる法。髪垢を去る法。

文藝美術。 病後の吟（美妙齋）柳櫻都錦畫（立花屋かをる）

寄書。 洋服ふ付きて（久平老人）

通信問答。 もみぢ樣へ‖燒餅を燒くといふ事○紫園令孃へ‖ハンケチで會話する法○高木づや子樣へ‖黄色ふなつたフラ子ルを洗ふ法○大鳥令孃へ‖綴のよらぬ法○岡山とり子樣へ‖日本字モノグラム水引の結び樣熨斗の事。夜れ到來物○江崎さま‖お辭義の仕樣○はな子樣へ‖去つけの事○一條令孃へ‖白山羊の手袋○園子樣へ‖瞼燒を治そ法○絹子孃へ‖小豆を早く煮る法。松魚の虫を防ぐ法○文子孃へ‖蕈類の毒を試ず法。松蕈の貯へ方○山本氏へ‖銅鍋の蠟を引く法○時子孃へ‖かをていらをふくらす法。ユヂ卵を殼のまゝ切る法。

餘興 新作謎……（懸賞小説三冊）

月報。

通俗衞生學。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十六號

家政

妻らしい妻

妻らしい妻とは妻だけの義務を盡くし悉して居るものを言ふのです。　吾儕の懐かしい家のためにハ妻らしい妻を得たのに越した愉快が有りましやうか?、　世は暮行いて妖魔の雲ハ人心を鎖してもこの家のみにハ公平な大陽が光を貸してくれて居ます。　外ハ狂風がざは立ッて罪も無い君子の明月が清い光輝を攪亂されても、此内のみには微風が花の香を吹送ッて居ます。　あゝ妻らしい妻。　その千金の笑の磁氣に感じてハ冷たい心の鐵も首を向け、その万斤の手の電氣に撫でられては湧起る憤怒も日を啣つ朝露です。　夫は浮世の戰場で、歸ッて妻にその事を語るのをたのしみにして、輸贏をあらそひ、子供は學校の点取のいゝ成蹟を母に告げて一滴の感涙を得やうとて爭ひましやう。　あゝ妻らしい妻。　君ハなよやかな手にハむくつけい者をひしぐ力があります。　いな、撫服へる力があります。　その手、それは何うして得られましやう。　天ハ吾人にその手を與へてあります。　が、その力をは直ぐ與へてハありません。　その力の成分だけは既に與へてあります。　之を得ると得ぬとはその力の養ひ方にあるのみです。　あゝ天賦の靈妙な手、雷に碎られず、光線に透されぬ手、それで春の葱のやうな手、たをやかでたをやかでるい手、世間あまたの淑女たち、…あゝ捨てるハ惜しうムいます。得れは無論得られます。　得さへすれば取りも直さずそれが即ち妻らしい妻です。

安直で美衣美食を得る秘傳　　松孃

「螺も大概にしてお置きなさい其樣なうまいことがあるもんですか」とお叱りもありましやうがあるから不思議です。　一体此法は彦婆さんの發明で爾來一子相傳の秘法で中々容易くは許し申すべきでもムいませんが外ならぬ愛讀の方々の事でムいますから少々愚見をも加へて御傳授申します。　さりながら彦婆よりの申傳へにハ此秘傳は實行し得られると見込の付た人にあらざれは傳授してハあらぬと堅く戒めてムいます。處で私が今皆様にお傳授いたしますのは皆様は充分實行なさる勇氣のある方と信じますからのことです。　萬一實行なさる勇氣のなき方が之をお讀になつても迚も極意が分りません。

安直で美食を得る秘訣

第一　器具を清潔にする事。　掃除の行届きたる屋敷に住めば實に心持が善うムいます。垢の拔けた衣服を着ればよい心地がいゝします。清潔を嫌ひ不潔を好く人は一人もありますまい。是れ人間天賦の性質でムいます。　よし器は粗末の品でも清潔なればナントなく食物が旨うムいます。之れに反して膳も茶碗もイヤーな臭がして茶コビでも附てゐますと何となく旨味が少い。　尤臭物身知らずで隨分平氣でかゝる器で食べてゐる人もあります。　が人の家で御馳走になるとき知れます。　茶コビのある茶碗で「粗茶一服」と出されたときは玉露も番茶の味がします。　又立派な料理でも垢拔けのせぬ器具で「御茶漬を一膳召上れ」と出されたときはうまさうなものでもうまくありません。　料理屋の料理のうまいのも道具の清潔なのが重なる原因でムいます。　ですから我家で食べるにも同じで清潔ならばうまく不潔ならばまづい筈です。　が不潔で別にナントも思はぬのは住めば都で氣が附ないのです。　若し之が清潔でありますならば今一層の味を増します。

第二　過食せざる事。　花は半開酒は微醉と申すは誠に名言です、満開の花を詠めますれば觀る内に散る花もムいます微醉でよせば愉快であるものを過すが爲に醉興も起ります是は酒の上のお話で我々には御縁のない方ですが食事も是と變つた事はムいません満腹するまで頂きますとそれは〳〵心持の惡るさ次の食時には食も進まずいくら山海の珍味を陳べても旨くはありません。　それを食時に少々づゝ控目にして御覧いつも清々してをりますから何を召上つても旨く頂かれます。

第三　間食をせぬ事　西洋人も隨分お菓子や果實を賞翫いたしますが三度の食事の時に給べます。　さりながら我邦では三度は三度の食事として其上に隨分お間の物を召上ります。　此風は身分の高い程甚しくてお間の過ぎる爲三度の食事を給べたり給べなかつたりしますから体の加減が狂ひ始終病氣勝です。　長壽の人は別段仙藥を飲んだといふ譯でありませんが大抵過食をせぬと間食をせぬ人です。　殊に夜分の間食を愼んだ人です宿食ほど病氣を起し易きものはありません。　長壽のみか三度の食事も百倍旨いです。

第四　食物を變化する事　ドンナうまい物でも毎日食べればあきます。　まづい物でも偶に食べればうまいです。　だ

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

から三度々々は勿論毎日〳〵變えるがよい。さすればうまく食べるのみならず衛生上にも至極必要なとです。秀吉が麥飯を賞美したも此です。その獻立の仕方はいらつめ第七號保險食料の處を御覽なさい。

サテ消費少く美服を得る法は次號まで暫らく御預りいたします

女生徒の衣服装飾。

今日ほど今まで女學校ゟ澤山出來ることは無く隨ッて此頃ほど女生徒の數の多くなくないまとは有ません。昨日までは帳場で脂下の烟管を味はッて女子の教育には苦虫を食潰して居る起爺も、また昔氣質に女大學を母の手簞笥から探出して娘に與へた先生もいまは社會の潮風にその生な考も黒くなり、爭ッて我子を諸處の學校へ通はせます。が、あの女生徒の人たちは自然物の心をもまだ辨へぬ幼い姫でも無く、殊にその數の多いのは比へて言へば花の蕾ともいふべき歟、すなはち十四五歳から十八九歳であるといふ事は遂に今日の女生徒の人たちをして、申せば失敬かは知りませんが、ちと花車に過ぎた様子を作らせるやうに爲たやうです。なるほど御兩親からの支給でかれあれ身体を装ふのですから何も他のものが關係したことでは無く、つまり方々の御勝手とは申すもの、、また思直せば何も餘處行の帶をしめ紅や白粉を厚く施し、衣裳はむしろ勿体ないとも言ふべきほどなのを用ゐて學校へ通ふのもあり褒められることでもありません。それに輕肥は人の好む處です。何も記者はそれを排斥して人情に悖れと申すのではありません。が、あまり綺羅びやかな衣裳や粧飾は却つて淑女の高尚な處をうしなはせて、如何にも淺ましく見せます。殘念ではありませんか。

「身の粧飾に本人の鑑識は見える」とは誰やらの金言です。いやしくも配劑排置がよろしくさへあれば普通の薩摩飛白、簡略な紫繻子の帶をしめて居てもむしろ配合のわるい朽葉絽に紅、淺黄の水撰樣の帶をしめて居るのにも見優りがして、その見優りがするといふのもつまり其人の心に存する美術心の程度すなはち「高尚」といふ事があらはれて見えるといふとです。華美に過ぎた衣服を着けて故さらに人の眼を引止め、それで暗に得意となるのは西洋の交際法でも惡いと云ひます。實にそれに違ひません。華美に過ぎて居るばかり、而も一點の風趣にも欠けて居る衣服の粧飾は取りも直さず本人が野

蠻人の區域を脱せぬ看板を見せて外をあるくと仝じとです。

今の世の女生徒の方々の多分ハ此点に於てはどうでありましやうか、記者はそれを許する事はしませんが、たゞすこし驕奢に過ざる粧飾で學校へ通學なされるのハ疑も無い事實だと言ひます。

筆を更めて申すことも「身の粧飾に本人の鑑識ハ見える」といふ一言です。」

細君虎之巻　　　　松　嬢

此細君虎の巻は思付放題手當次第筆記致しますれば述べ方ハ至て不規則でムいますから其お積りで、倘引續いて、「今世淑女虎の巻」をも述べる積りでムいますから序に御披露いたしおきます。

一　心を用ゐて良人を大切にし苟も小兒等が爲に取りまぎれ之を怠るべからず。隨分廣い日本には小供のない中で良人を大事にいたしますが偖小供が出來ますと「小供の世話」と云ふ事を鼻に掛けて朝寢を貪つたり身仕度を怠つたり良人を子持前より粗畧にする嫁婦人があります。成程嫁良人も子持だからとて不勝なさる方もあります。又不勝なさッてよい筈です。が鼻に掛ける嫁方ハチト御勘辨違ひでムいます。婦人の義務は何です。育兒も其一です。家内を愉快にするも其一です。良人は良人で分業がムいます家内外の嫁務がムいます。婦人の嫁仕事は樂なものだと申す次第ではムいませんが又男子の職業は別な者で痛く心を勞らします。疲れますから家に歸て樂に心の勞を休め明日の心勞に堪える下地を作くるのでムいます。此勞を愉快に休めさするのは嫁婦人の義務です、大切ある職業の一です。子持だからとて此義務を盡さぬのは我儘と申さうか腑甲斐ないと申さうか何にしても婦人の道を盡くす方ではありません。それも手が屆き兼ぬるものならば仕方がありませんが現に教育あるいらつめ購讀者諸君の如きハ美事に爲遂なさるのが何よりの証據です。ナントさうではムいませんか。男は兎角意地のキタナイもので細君がよし子持であらうとも不取扱にされますと家を家とせずヘンナもので兎角短氣にありまして快樂を外で求めます。道德心に乏しい男ハ妾狂ひとか但しは女郎買サもあい方ハ玉突とか碁會とか但しは會席へでもチヨイと出掛ます。マー是ほどに至らずとも折さへ有ば外出する樣になります。さて此樣なると細君（改名して山の神）は自分の不束を棚へ上

て浮氣の人だとか實のない人だとか考へ込みまして其人の一擧一動をイヤーナ白眼で睨めつけます。　山の神の口から偶に出る言葉も三才駒の様にピンシヤンとねつけます。　嗟乎最愛なる愛讀の諸君よ婦人の行もかくてもよいものでありましやうか諸君の澱泊なる無垢の御心より判斷されなば否々の御即答があります事でしやう。　かゝる失は兎角無學の婦人に多くございますからあそこの暗い處で居眠をして居ますおさんは御話をなされて後日の戒を御埀れ下さらんことを願ひます。

一　至急を要する要事の外は明朝之を主人に語るべし。

前申も通り男子は晝間繁雜なる仕事がございまして充分勞れて家に歸りますから成たけ勞を増させぬやうにするのが肝心でございます。　だから要事などは成る丈話さぬやうにして明朝お話しなさるがよい。　朝は精神が一番活潑です。　この時聞きますれば活潑に其要事の處置をつけます。　尤も急な要事は別です。　其處の加減は聰明なる愛讀者には充分お出來なさるでしやう。

レモンの効益。

レモン液と砂糖とをほどよく用ゐて居れば咳に惱むこともなく、一二週間の間朝飯の前に毎日レモンを用ゐれば春の頃とあッても春氣にかたれて逆上せたり、また何處やら氣の鬱々とあることもありません。　殊にいらつめの第十一號にも出しましたとほり化粧藥の善惡を鑑定するには此上もない究竟のもので之に因ッて淑女の方が化粧藥を御撰びなされば、かならず姿色の衰へるのをかなしむにも及びません。

小説

空行く月　　美妙齋主人

第六回　では櫻か薔薇の色艶を奪ひます。

今や美麗もプリムニイも擊たふとかまへるその途端鹿は方向をあらためて……案外な……横の方へ外れました。横、しかもプリムニイの方へ外れました。さア今も美麗の方がプリムニイより惡い位置となりました。狙ッて擊たうと爲たにもしろ、前にはプリムニイが邪魔して居て……左様かとて擊たずにも居られません。　はや、プリムニイは鞍坪へ身を倒して狙ひます。あはや其こそ中原の鹿今は美麗が項羽でプリムニイが漢帝です。

耳をつらぬく火藥の音、天然の急な變化、はげしひ音のそゞ跡には悠々とした白烟が馬をつゝんでさまよひます。　發矢……

鹿？　見事さふれました、血は染みて。　そして見事、ブリムニイ、いつろ馬から落ちて居て、そして見事その美麗、擧止めたられしさに銃をさゝげて殺氣を含んだ顔の上へや、洩らした微笑の色彩。　唱采の聲。　天にはうろたへて翔る鴉の一群。

＊　＊　＊　＊　＊

第七回　でれ孔雀が身れ美しさを誇ります。

「さういふ都合になれば私の幸福は此上もありません。」

「へイまだ只今たしかに御答は出來ませんが、兎に角一應渠の心をも聞いて見ました上」……

「どうろ宜しくねがひます。」

此處は第三回に一寸見えた西山伯爵といふ華族の邸第の一室で對坐して話しをして居るのれ伯爵の子息西山季明と望月輝子の父親十五郎とでそ。

第三回では西山は影の人物であられて居ましたが、是ろらは關係が強くなッて來ます。　年齢は二十の上を四ッか五ッくらゐ越して居て、今ある省に奉職して居ますそ。　華族の子息さけに海外留學も爲て來ました。　が、珈琲店に馴染が多くあつさか、圓筒の高帽子と損料貸の塗馬車で花を薄淋しい處の邊で拈つたかだうだろ、疑へばそれも有そさうだと云ふ譯れ風采が何處やら粹で、およそ風流な隱語も大抵心得て居ることです。才？　無論ありましやう。　現にまだ是ぞといッて人の目に立つ程の事も爲ないで、それで可なりな地位を官海で占領し、あほそれのみか、事によると近らに博士とかいふ尊號をいたゞくといふ內儀もあるさうです。

英國に留學して居ただけ、ある種類の事に關してれ英人の氣象を受續いて耐忍して屈しないやうです。が、その屈しないといふ事は社會の實用に關係のある事よりあまり強く向きません。その證據れ歸朝以來何か土木の工事を受合ッて、それが失策しましたが、まだ末の望のあるにも拘らず拋ッてしまッて顧みない事です。誰の說を信じて居るのか內剛外柔といふ事は無上の眞理と思ッて居て、そあはち外面のちと女子めいた處れ一寸世にいふ壯士の輩に擯斥されるかも知れませんが、しかしその代りにれ內に剛氣が鬱勃と貯へてあッて、それを容易に見せないのが至人の至人ださみづから稱へて居まそ。朋友からも忠告があッたさうですが、自身の職業で無い事にも吻を挾みさがるのが癖で、そして自身の職業には諸

處へ出てゐる演說を無二の事と思ッテ居て、その時には乾度英佛の下ざまの事を引証し、その引証を暗に眞理と思はせるやうに論を傾けて「ですから日本で」といつでも斷定を下します。交際は上手です、殊に婦人をば中々敬して愛します。しかしその敬して愛すといふのが……それには他人もちと判斷にくるしんで居ます。　何故です？　まだ無妻でそしてちと滑稽の口調を好んで用ゐますから。

茂はすこし反身になッて麝香剤の香水を掛けたらしい絹手拭を一寸ふつて髯を撫で、

「望月さん、これは冗談ではありません、重ねてくどいやうですが、私の一生の御願ひです。」

「それは、もウ……あんな不束者ですが、折角御心に留まりましたらにはまづ伯爵夫人となる幸福ものですもの。」

はて不思儀、伯爵夫人！　あ、阿輝……

「阿輝さんも、斯う云ッては諛諂のやうですが、本當です……わたくしは感心しましたなア、あの交際にも長けて居なさることにさ。」

虚、でたらめ、無根の事で褒めるのは諛諂でなくて何でしやう？　が、すべて世の親ごゝろ。どこやら嬉しい十五郎。

「いやどういたして、」　首を低げて卓子の毛氈の端を爪で擦り、「……形ばかりは大きくて……はイ今年十八歳で……もウく幼過ぎて居まして。」

「妻のいゝのは夫をよくし、家を善くし、また子　善くすと英國の教師も言ひました」……

「あゝ、なるほど。」

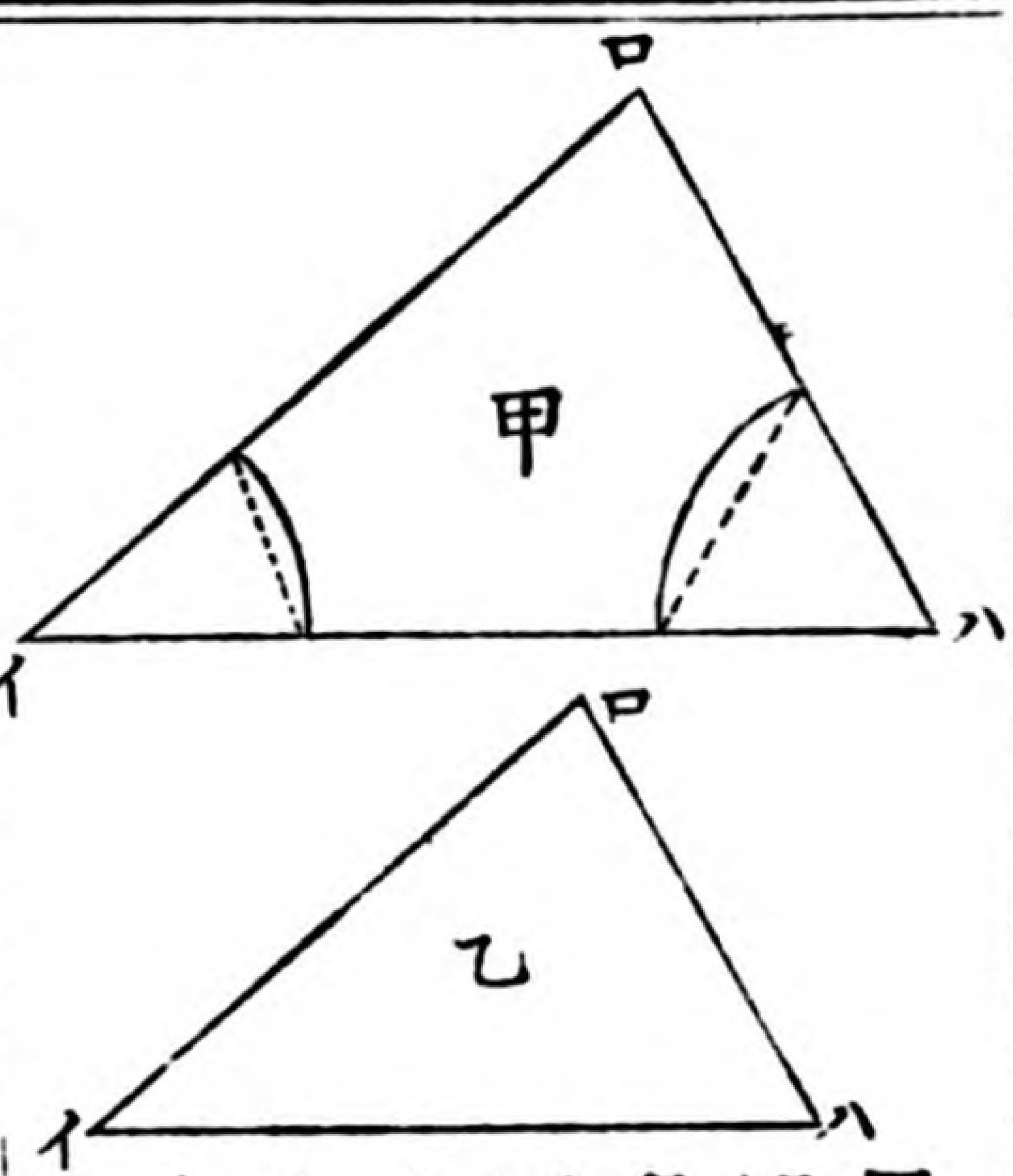
「わたくしも阿輝さんを妻にする事が出來れば世間にも耻かしくなく……そして、」　際立ッた笑を破裂させ、「僕もよくなるぜ」

「よくなるぜ」……わら……傲慢な言葉、それで十五郎は不滿足でもない有様、會社組立の保護金が出た貯蓄か、これも矢堤にはなたッた矢、的には「あたらずといへども」、さて的には「遠からず」でしやう。

講義

用器畫稽古の新法第八回　　ひ、さ、述

二個の三角形あり、其角に互に相等しきと第一圖の如くなるとき此兩個を大さは等しからざれども同形なりと稱す、即ち甲の(イ)角と乙の(イ)角と等しく、又甲の(ロ)は乙の(ロ)、甲の(ハ)は乙の(ハ)と等し、而て一定線上に(例へば乙の(イハ)線)、甲三角形と

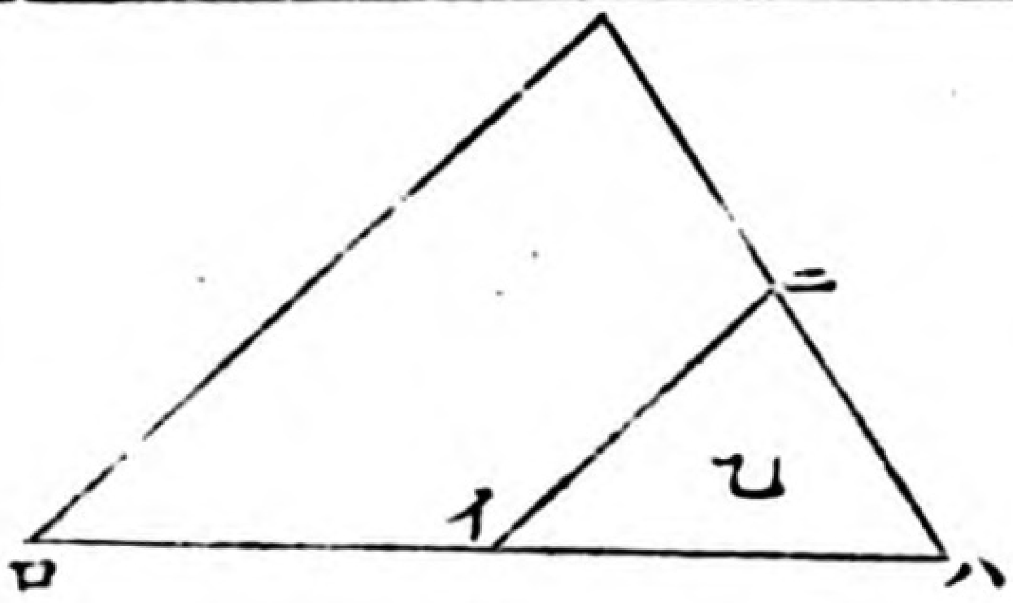


同形あるものを書かんと欲せば甲の(イ)角と(ハ)角とに等しき角を乙の(イ)及び(ハ)端上に書けば(ロ)角は自然に甲の者と等くなるべし、即ち等しからざれども同形なる三角形を得るなり、今甲の一角(イ)を圓心として任意の弧を畫けば(イ)を頂角として一個の二等邊三角形を書くことを得べし而して此二等邊三角形と等しくして同形なるものを書く法は已に學びたる處あり、然らば次の問題を少工夫できましやう。

(四二)二寸五分の定線上に甲三角形と同形なる者を畫け。

四角形は其一對角線を引くときは二個の三角形ができます然らば次の問題も容易に出來ましよう。

(四三)不規則なる四角形を書き大さは之と等しからざれども同形あるものの書き得るか。



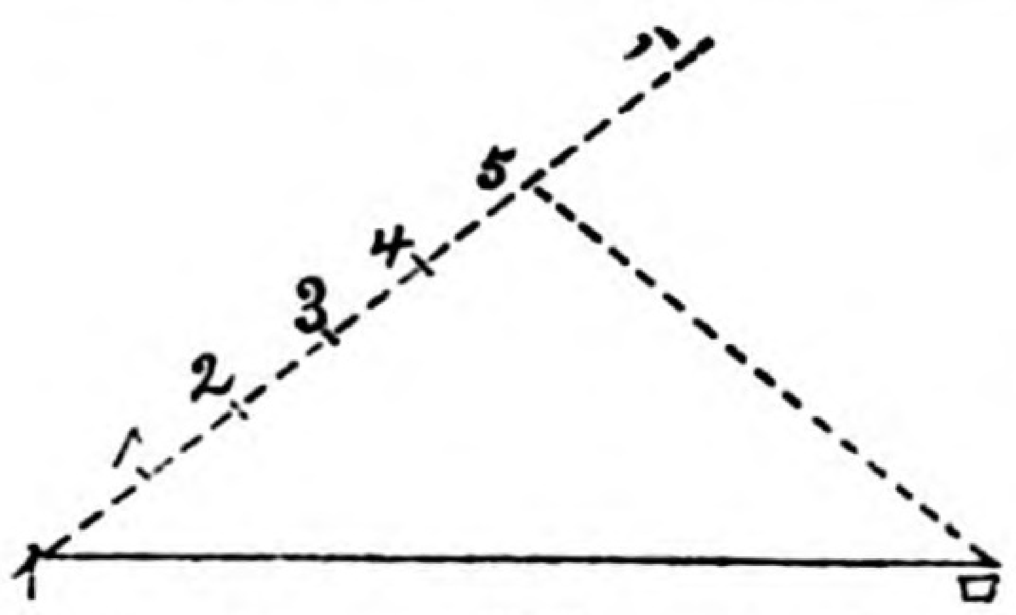
甲

第二圖、甲三角形ありて其一邊中の一點(イ)より他の一邊に平行せる一線を其形内に引きて作りたる乙三角形は甲と同形なり、此法は甲三角形を縮圖するに最も便利ある者なり、而して四角形は二個の三角形に、五角形は三個の三角形に此他の多角形も數個の三角形に分割することを得べし、故に此縮圖法は四、五、六、七、角形等何れにも行ふ事を得べし、又此縮圖法の反對即小き圖を廓大圖になすも何の苦もなき業でしよう然らば次の一、二、例を御試みあれ

(一)不規則なる五角形を書き、前說によりて適宜の大さに縮圖すべし

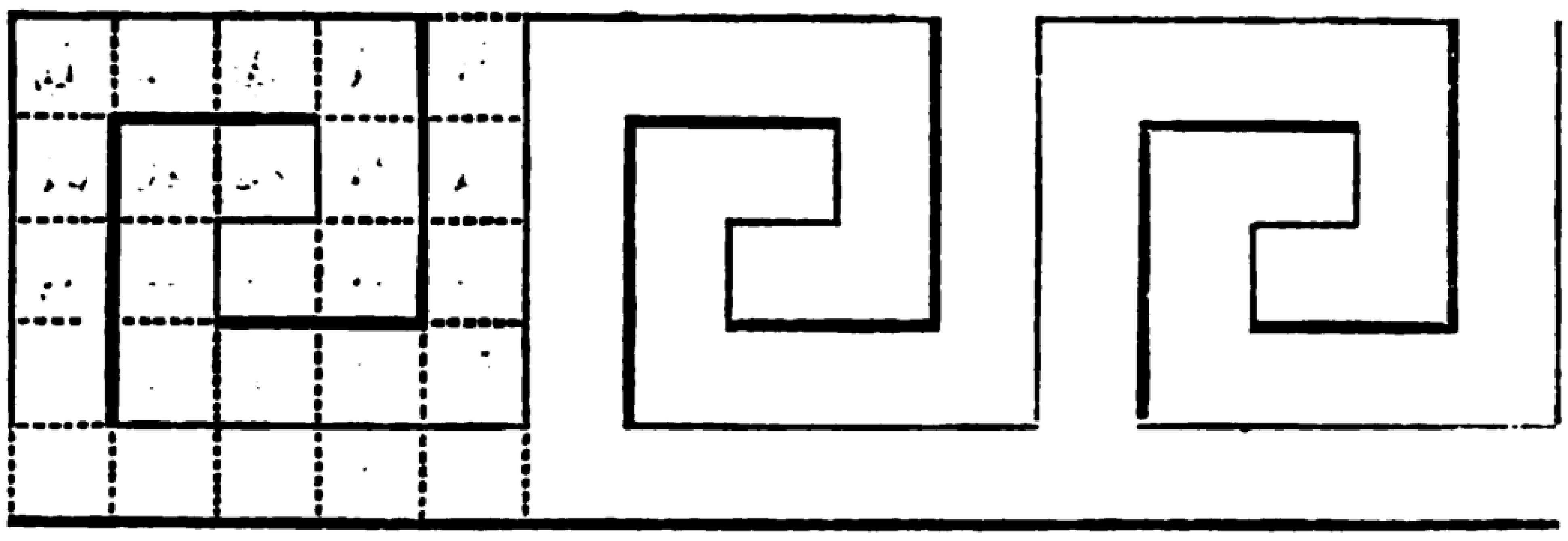
(二)不規則にして小き六角形を書き前說により任意の大さに其廓大圖を書け

第二圖に於て(イ)點ハ(ロ)(ハ)邊の二分一の處にあり故に乙三角形の(イ)(ハ)邊は甲の(ロ)(ハ)邊の二分一なり而して他の二邊も各甲の他の二邊の二分一に等しきことは尺度により測り知るべし、若し其(イ)點(ロ)(ハ)邊の三分一の處にあらんには乙の諸邊は各甲の諸邊の三分一に等しきことは己に數學者の証する處なり、此說は別に尺度に測るに都合よき數にてある處の三角形を書きて實檢せば容易に慥むることを得べし、而して定直線を數等分するには此理を應用します例せば第三圖に於て(イ)(ロ)を數等分せんとする處の定直線とし而して其一端より一線(イ)(ハ)を引きて之を適宜に排らきたるコンパスにて(イ)點より逐次同距離に(イ)(ハ)線を切る即ち1、2、3、4、5、等の如し(此圖は五等分せんとするが故に五個に切りたり)其最終點(5)と(ロ)とを連綴すれて一個の三角形ができます、夫から後は別に說明いたさず共已に少學にありたることです



此數等分法は書法上最も要用ある場合多し、今其一例として左の摸様を擧ます

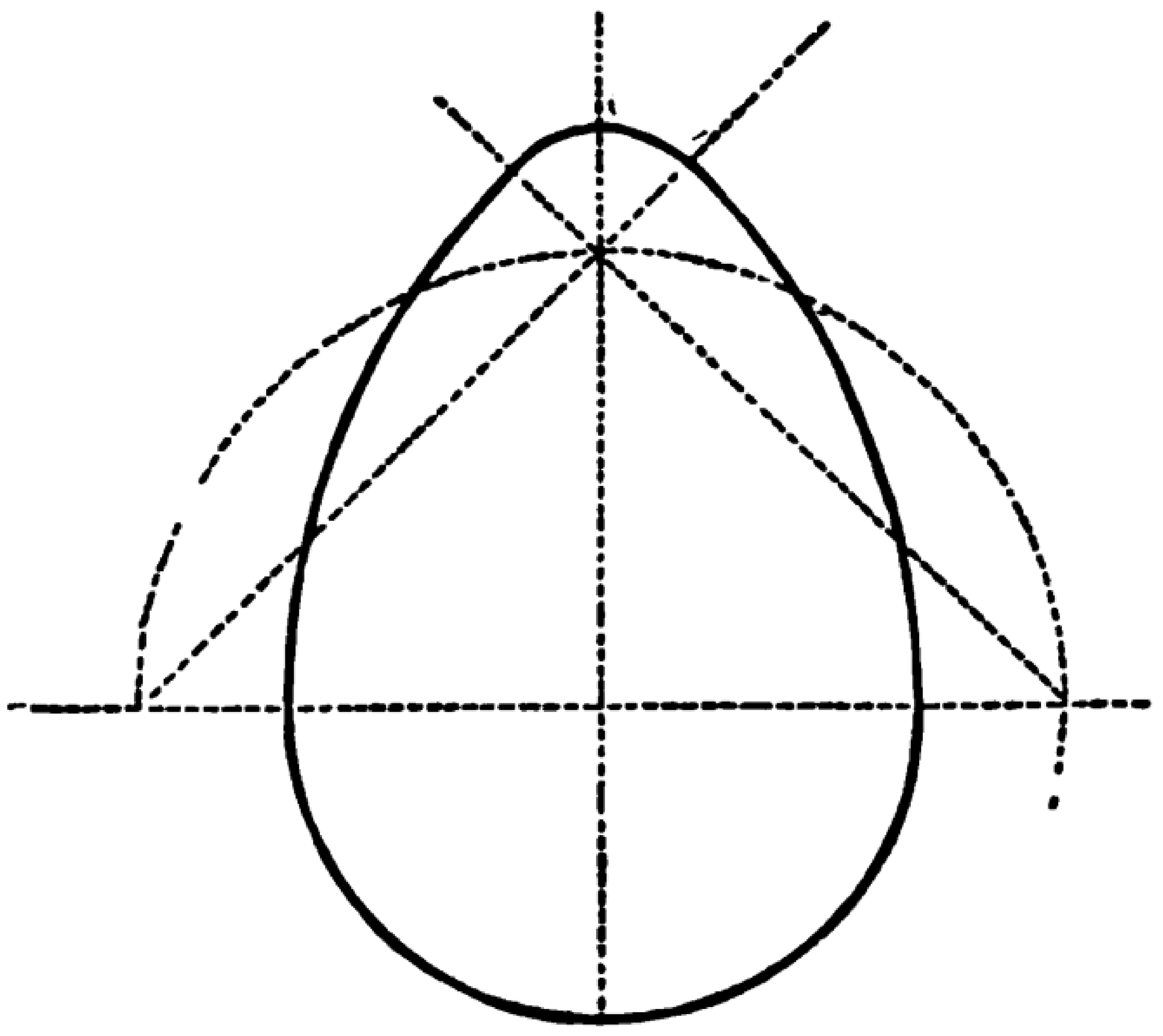
第四圖、は數個通接したる電紋です其一個は正しく正法形に容ります而て其大さを



豫定したるときは其正方形の各邊を五等分することを要します

用器畫の答　いらつめ第十二號の部

（十四）下圖の如くいろを延長し（卵形を長める度を考へて。）は點を定めにはを引きて半圓周より畫き始むべし。



（十五）一個の圓形を畫き其半徑を以て圓周を六個に等分し其相對する二點づゝを連接す（十六）は其一つ置きの二點づゝを連接したるものあり

（十七）ハ（十五）ト（十六）とを合せたる方法にて畫く。

（正誤）いらつめ第十四號第六回講義十二行目の $\frac{60}{2}$ は $\frac{90}{2}$ の誤十六行目 $\frac{360}{60}$ は $\frac{360}{6}$ の誤。

雜纂

露國育兒の奇風。

露國ほど赤子の育て方の奇怪な國はありますまい。勿論赤子の身体を布でぐる／＼卷にするのは露國のみでは無く、佛國でも仝様にする人もありますが、まさか露國の樣に赤子を人形のやうには取扱ひません。露國人が赤子を見ることとは吾儕が人形を見るのと仝じことで赤子を布で卷いて身体の自由を妨げ、それを、まア、どうでしやう、棚の上へ置いたり、或は一寸吊して置きます。變ではありませんか。ですから、外國の旅人は其處へ行つて之を見て大に驚きます。人形か偶像かと問ふと彼方は冷淡で赤子と答へますから思はず一度定めた眸子に更に力を加へます。そして露國人はその赤子に湯をつかはせるといふ事にも殆ど無頓着で、ある人が「此子はいつ湯をつかつたか？」と尋ねましたら彼方は驚いた体で「湯？　あのあゝたゝい湯？　ソンな事すると死んでしまふ。」と呟いたそうです。

婦女のいましめ

たゞ自身をたのしめる目的で婦女を迷はす男子は迷もするに表向の深切を以てまづ婦女をたのしめます。　男子が表向に婦女をたのしめるのは心からたのしめる證據では無く、遂には自身をたのしめるために婦女を奴隷にしてしまふ爲の手段です　本當に婦女を愛するものは、まことに婦女をたのしめるものは容易にそれを表向にあらはさぬものです。　容易に表向へあらはさぬ、何處かの機會に隱見させるのみでそ。比へれば登つた稲です、みのれば登るほど頭は低く垂ます。また、言はゞ甘蜜を釀す蜂でも、其蜂に限つて低く飛ます。

けれど刺は有ッても薔薇の色香は暫らく人を眩まします。狎れてその愛らしい露の唇を吸ふてはじめて指は刺に觸れ後悔するのが世の常です。　表向の愛情は見せるために作ッたもの、そして心からの愛情はむしろ見せぬために作ッたもの。見せるために作ッた愛情は、それゆゑに、よく人の目を欺いてそして見せぬために作ッた愛情はよく人の目が見逃します。それで一時の愛に眩んで、口惜しくも多情の才子、否、薄情の僞君子に…その情感に強い花のやうな姫たちは誑かされるのが多くあります。

何人の批難をも避け去りながら自ら判斷せよ

文藝美術

病後の吟

美妙齋主人

夜を　ふくる　てら、の　かね
　いま　われ、も　しなで　きく。
ゆめ　ふけて　はだ　さむき、
　よぎ、を　のみ　なつかしむ。
かやーでし、の　やせーともし
　（なきがら、に　あへや　目を
しばた、く　べかりし、を）、
　けふ、は　ねや　もる　かぜ、に
つかれ　たる　いき、も　ふきぬ
　むせびーなく　つゆ、の　むし
（われ　やがて　くさ成かげ、に
　かたり　あふ　べかりし、を）、
けふ、は　薬を　かたしきて
　わが　うさ、も　わかつ　めり。
おもひーやれ、きのふ、の　夜、
　その　かね、も　むじやう、にて、
その　むし、も　ともしび、も
　あだ、に　のみ　みえにし、を。
み　ひとつ、の　あき　ならじ。
　さる、を　なは　あらず、も、の
あへれ　いま　ひとり　よぶ。
　はつかし、や　ものおもひ、
くも、と　たち、しのは、と　わき、
　ぬし、を　とぢ、ぬし、を　つき、

とり、の みづ すふ ま だに
　　ぬし、の 身の あだ、と なる。
似る もの、ゝ なつかしさ、
　　にぬ もの、ゝ うらめしさ、
たゞ このむ もの、を のみ
　　あさり＝ゆく 路 なれや……
みつ、と なる はな、は つま、
　　とハ ならぬ 葉ハ かたき。
訪はれてハ かへりて、も
　　おもかげ、を なみだ とも
目よ うかめ、 うれしさ、よ
　　たまづさ、も くり＝かへし
ながむれば、 つらかりし
　　日も 戀ハひ、 あき しのぶ
ゆき、の たけ。
　　つひ、に ゆく
　　すゑ、の みち たれ このむ。
われ、も また ひとたび、ハ
　　あハや いま そ、この せき
こえ＝くゞる べかり けり。
　　その せき、よ いむ 目にハ
生と 死の くに＝さかひ、
　　日も やみ、の うら＝おもて、
おそろしく みえ、も せめ。
　　あは 見れば 生と いひ、
死と いふ、も たゞ せき、の
　　みぎ＝ひだり よぶ な のみ。

よ、の なか、の せき、は しも
　　すくよか、の あし、ぞ こす。
この せぎ、は なえし あし、
　　つかれ たる み。 のみ こす
こす ひま、は まばたく ま、
　　み、は よわり、 目は くらむ。
くるしみ、を など しらむ。
　　さて こえぬ。 うき、も なし、
いろ、も なし、 はな、も なし、
　　をさめず て 解脱ハ 得む。
あやまでは な、ハ のこせ、
　　はね、は つち、 にく、は みづ、
えも つぎで すゑ ながく
　　よ、の なか、を めぐり＝ゆき、
因と 果の くるま、をや
　　たえま なく まハす らん。
あゝ 美妙、 ちゝくさき、
　　いま むかバ いかにぞや。
やまひ＝づゑ、 いたみ＝ぶね
　　たびし＝きて せき、の と、を
くげる べく なりにし、を……
　　かの ほまれ、 かの のぞみ、
なげうつ、か、 もとむる、か
　　なまじいに など さとる？。
無窮 いかで たのむ べき。
　　みよ、や 日も すゑ、ハ やみ。

なめげなる　わざ、は　おなかうど、の　つね、と
おばーし　ゆるしーたまひて、よ。　いぬ　つき、
の　いらーつめ、に　のせませーたまひし　さ
も、なる　おんかた、の　なくならせーたまひし
とて、の　おんうた　まーことに　まことに
もの　しらぬ　み、にも　ふかく　こゝろ、に　か
んじーいりーはべる。　わらは、も　ちかごろ
はたちーあまり　いつゝ、にも　なれる　いと
こ、の　きみ、の　なき　ひと、の　かず、に　いり
ーたまひぬる　こと　など　おもひーあはせ、
おなーじ　なげき、に　ひかされて　え〃たえ
ぬ　まゝ　をこがましく、も　おん〃みゝ、を
けがし〃まつる、に　こーそ。

やまざと、の　しづのめ

やまた　さま。

きけば　うし、　おもへば　かなし　よ、の　なか、に
おなじ　なげき、の　ひと、も　ある、かと。

われ　ばかり　しつむ　うれひ、の　うみならで
おなじ　なげき、の　あま、も　ありし、か。

こまやかなる　み〃ことば、に　おん〃かへし、
とは　なく〃て　たゞ　かくなむ。

やまた　[illegible]。

うき　もの、を　おなじ　なげき、に　こふる　かな、
さらでも　やど、の　あき、は　つゆけき。

やまざと、の
なに、とか　呼ばるゝ　きみ。

柳櫻都錦繪

立花家かほる作

場割○序幕上野公園三宜亭塲○同御廟前塲○不忍池身投塲
役割○豪商秋田富三○下男正作○新橋藝妓小六○太鼓持三八○女生徒竹山清子○同槇田蘭子○中村輝子○代言士花垣先太郎○巡査伊東峯三○三宜亭女梅○同竹○同松

○仕出若干

本舞臺三間の間常足の二重、正面一間𦨞戸を立切、出入あり、其上に𛂞貸切の札紙を張、二重上下を赤キ毛布を敷詰め、下手の柱に三宜亭といふ聯をかけ、此の下茶道具など宜く二重の前に床几二脚を幷べ、此上下櫻の立木にて見切り、日覆より櫻の釣枝を下し、凡て上野公園茶見世の摸樣宜く、上下の床几に仕出し四人茶を飮で居る、下手に下女三人櫻餠を皿に入て居る、此の見得流行唄へ双盤の鳴物を冠せ、賑ろふ幕開く。

「オイ姉さん、早く餠をおくれ「ハイ〳〵只今差上ます、御客樣が此通り込合ますのでお待せ申ましたト餠を出し「あなた方は工藝共進會へ入しやいましたか○「今歸ぶが中中立派な物が有が其中でも金剛石入の指環なんぞは姉樣に買て上たい子（竹）梅ちやん好ヿ子……△「チット己モ何か買

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

やらうか(松)オホ……御様子のいゝ事ばッかり(梅)皆さん御禮から先へ申し上げやうではムイマセンカ(竹、松)ホンニ左様デムンス△「イヤ不忍の辨天様よりこゝの辨天様の方がヨッ程御利益が有ル様ダ○「辨天様デ思ひ出したがこれから御開帳へ行て見やう(竹)久しぶりで今日こそ豐前の淨瑠璃の奉納が有る相です(梅)ソレニ別品さんも澤山出ましやう×「ソイツは聽者△「イヤ見ものだト茶代を拂ひ、ワヤ〳〵、言て四人ハ上手へ這入る(松)ホンに今日程こんなに急がしい事は有りやしない其はさうト一ト間を借切つた御客様は上州とかノ大した商人衆で海防費とやらを御上に五万圓も献上なさるさうだが今日はお約束故もうお出なさりさうな者じやムセンカ(竹)噂を爲レバ影とやら(梅)三八さんを連れて向から御出になりましたト三人はそこらを片付て居る流行唄雙盤の鳴物キッパリトあり向より秋田富三羽織着流しラッコの帽子を冠疊付の駒下駄凡て豪商のこしらえ酒に醉ひたる仕打此を新橋藝妓小六好の拵毛糸の肩掛をまとひ介抱しながら出て來る跡より下男正作チョン髷ノフケタルかつら實体なる拵松源の折をさげ太鼓持三八と一所に供をして來る(富)コレ小六ナゼ御前はさう濟まない顏をして居るのじや私が身受を爲るのが氣に入んのか(六)ナンノマー勿体ない此間の火事ノ時にも色々御世話に成た上おッ母さん迄多分ノ頂戴物又其上に家迄建てゝ下さるとの事かやうに御恩を受けながらナンデ否ヤを申しましやう(富)さう聞て私も安心實ハ今度日本橋へ支店ヲ出した故一月の內半分ハ此地に居るつもりそれで御前もお母も根岸ノ寮へ引き取て世話をしやうト思ふ故今松源の下座敷で御母ト相談をきめ半金丈ハ渡して置たからマー安心して夕暮の花を見ながら一杯呑もう(六)ソンナラ……あのもう御相談まで(三)イヨーお近い內に赤のまんまニ鰹節添て目出たく〳〵の若松さまよ(六)エ、騒々しい三八さんだよ(三)ホイこれハ失禮眞平御免(富)コレ小六また血の道でも起ッたか(六)イエナニ先きの御酒ノ故か頭痛がしていけません(富)ナニ頭痛ソンナラ三宜亭で少シ横にでもなるがいゝ(三)御部家様には先ッ〳〵(六)ホントニ厭ナ三八サンだよ(三)マタ御小言(正)アンマリペラ〳〵シヤベル柄ダハ……ト右の鳴物にて舞臺に來る(女三人)御早くいらつしやい……奥へドーゾ(三)旦那から御祝義だと金をやる(女三人)難有う存じます(正)又金やるのかト可笑み有て皆々奥へ這入ル同じ鳴物にて向より竹山淸子束髮鬘黄色なるパラの簪を插て黃八丈の小袖に黒縮緬の羽織毛絲の

肩掛をかけ紫の包蝙蝠傘を持ち友達娘輝子蘭子凡て同じ樣なる女生徒の扮にて出で來り花道にて（淸）モシお輝さん美事に咲たでハありませんか（輝）ホンニ左樣でムい升此の夕日に映る景色では定めし御秀逸で御坐りませう（淸）イエ夫所でハ（蘭）エー（淸）アノトント風流な事ハ出來ませんワイナー（蘭）ナニを仰やいます淸子さん和歌といひ又書畫といひ里見學校に御出の時から先生始め皆樣の御褒めなさる程に御上手去年學校を御退りになつてからは英學を大層ゴ勉強なされて男子も中々及ばぬとの事（淸）その樣ナ事ハムりませぬわいナアーと三人ハ舞臺よ來り床几へ腰を掛ける下女は茶を出す此の時以前の正作少さな風呂敷包を以て奥より出る三八送りながら（三）氣をつけてお出なさい（梅）何處へ入ッしやいます（正）巳か…旦那樣のいひつけで先の藝者に呉れる金取に日本橋の出店迄ゆくのダガ旦那は醉てるから若し寢てしまッテ風でも引といかねいから姉さん跡ハ頼むよなにしろ百五十兩と云ふ大金故中々大した御使だ（三）ナイ正作サン金の事を大きな聲で言ッて若し惡者にでも聽かれると大變だぜ今に旦那と松源に行て居るから歸りなあすこへお出なさい（正）ヨシ〱田舍と違ひ生馬の眼を拔く所だから油斷ハならねへドレ行ふト草履をそく（三）此ノ御使の濟迄ハ一滴たりとも飮ませぬト左團次ノ聲色を使ふ（正）ナンダソンナ聲出して（三）これは今島原で演て居高島屋の正直淸兵衞の聲色サ…（正）淸兵衞とハなんだい（三）お前の樣な正直ナ人サ（正）ウムそうかト捨臺詞有て向へ這入淸子ハ之を聽き金の欲しき思ひ入（淸）有所ニは有り無イ所にハ無いはお金とやら今の話の樣子デハ百五十圓の大金を無益の事に費すとか其ノ金額ら此方に有れば思ふお方ノ（蘭）エートト聽きとがめる淸子は氣を替へ（淸）イエ彼の思ふ通りの洋服も百五十圓なら立派に出來るでムンすやう（輝）成程淸子さんの仰る通り共進會で白木家の出品の服も百圓致すハ大層美しうムりました百五十圓ナラ大した物が出來ませうそれハそうと春の日永と云ひながら最早六時も過き升たろら徐々歸りませうではムりませんか（淸蘭）ホンニ左樣致しませう」ト茶代を拂ひ立ちにかゝる

近事批評

洋服案ノ討議

女ニハ洋服ガ善キカ和服ガ善キカ是即チ今日ノ問題ナリ。

和服ハ日本在來ノ衣服ナリ洋服ハ今後新ニ採用セントスル衣

服ナリ。去レバ洋服ヲ採用セント欲スル論者ニハ頗ル確固ナル論據ナクテハ不相成筈ナルニ往々杜撰ノ論辯ニ滿足セラルヽノ樣子アルハ信ニ殘念ニモアリ亦氣ノ毒ニモアル事共ナリ。渡邊鼎氏ハ洋服採用ノ可否何如日本婦人諸君ニ告グト云ヘル論文ヲ女學雜誌ニ寄セ同誌第百廿號ヨリ百廿三號ニ分載セリ。然ルニ其論ズル所往々左モナキ事ニ理屈ヲ付ケ和洋兩服ヲ比較スルニ彼是各其基礎ヲ異ニスルノ形跡アルハ余輩ノ頗ル遺憾トスル所ニシテいらつめ記者ガ信切ニモ駁論ノ勞ヲ取ラレタルハ如何ニモ尤ノ事ニ思ハル。みどり先生ガ更ニ双方ノ論點ヲ批評セラレタル信切ノ段ハ余輩幾重ニモ國ノ爲ニ先生ニ謝ス可シト雖モ其論旨ハ公平無私ノ明評ナリトシテ余輩偏ヨ感服スルヿ能ハザルナリ。いらつめ記者ニシテ幸ニ一日ノ餘白ヲ假スノ榮ヲ與ヘバ余輩乞フ其感服スル能ハザル點ヲ列擧セン。

第一。日本服ノ前部開放スルハ渡邊氏ノ不都合トスル第一點ニシテいらつめ記者ハ之ニ對スル新案ヲ提出セラレタルニみどり先生ハ衣服自然ト破ルベシトノ一言ヲ以テ恰モ此點ニ關シテハ決シテ改良ノ法ナキカノ如ク傍若無人ニ言放テカ。余輩未タ嘗テいらつめ記者ノ新案ヲ試ミタルヲ見ズ其果シテ實際ニ好結果ヲ生ス可キヤ否ヲ知ラスト雖モ兎ニ角類似ノ方法ニ依リ數度ノ改良ヲ加ヘバ必ス此點ノ不便ヲ避クルノ法アルベキヲ信スルナリ。嗚呼みどり先生ノ如キハ之ヲ見切ノ善キ人ト謂ハンカ抑モ亦大早計ト言ハンカ。

第二。日本服ハ腋下胸部ヘ直接ニ寒風ノ侵襲スルノ危險アリトノ說ニ對シいらつめ記者カ西洋正服ノ肩腕ヲ露ハスニ孰與ト辨シタルニみどり氏ハ西洋ノ正服ハ働ク時ニ用ヰルモノニ非ス云々ト評サレタリ。是ハ働ク時デナケレバ寒風ガ侵襲〆モ搆ハヌト云フ意見ナルヤ。又日本デハ無論此風ヲ採用スマジキ筈デストハ何人ガ定メタルニヤ。若シ渡邊氏ノ議論ヲ敷演スレバ冬ハ洋服ガ善キガ夏ハ和服カ善シト云ハ子バナラヌナリ。此點ニ御氣ガ付カレザリシハ如何。余ハ未タ嘗テ日本ニハ特別ニ寒冒ノ多キコトヲ聞カサルナリ。又一方カラ云ヘバ平常ヨリ外部ノ空氣ニ接スルカ故ニ其危險割合ニ少ナキノ理アルベシ。若シ又腋下ト胸部ガ心配ニ堪エヌトナラバ襟止テモ筒袖ノ襦袢デモ何デモ御心任セ「コルセット」モ入ラヌ正服モ無クテ善シ見エモ飾モ搆フモノカト言ハルレバ日本在來ノ品ニテ隨分御用ハ辨ズ可シ。　敢テ余計ノ苦勞ヲシテ遙々外國ニ其方法ヲ求メラルヽニモ及ブ間敷ナリ

第三。渡邊氏ハ日本婦人服ノ上下一連續ナルヿニ御大層ナル理屈ヲ付ケラレタリ。いらつめ記者ハ尙ホ「コルセット」ノ害ニ優レリト論セラレタリ。みどり氏ハ如何ナル日本服モ一連續ナリ「コルセット」ハ必ズシモ用ユベキモノニ非ズト說カレタリ。余輩ハ訝カル何故ニ一連續ナレバ肩ニノミ重ガ集マルヤ。何故ニ腰ニ纏ヒタル紐帶等ニ重力ヲ分ツノ効ナキヤ。「コルセット」ハ必スシモ用ユベキモノニ非ス。然リ「コルセット」ハ必ズシモ用ユ可キ者ニ非ス。乍併人間ニ毫末モ美術心ナケレバ知ラス事不幸ニモ美術心ヲ賦與セラレタル人間ニ於テ汝ハ恰好ノ可否ヲ問フ勿レ汝ハ實際ノ便利ヲ以テ滿足スベシ汝ハ西洋人ノ服裝ニ眞似ルベシ汝ハ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

西洋人ノ最モ醜キ服裝ニ眞似ルベシト云ヘルみどり氏ノ注文は抑モ亦難イ哉。开ヲ出來得可シト信ゼラル、みどり氏ハ抑モ亦自信ノ厚キ人ナル哉想像力ノ强キ人ナル哉。

第四。第四に關シテハ別段言フベキヿ無シ。只渡邊氏ノ實利主義ニ感服スルノ外ナキ而已。

第五。渡邊氏ハ和服ニ靴ヲ穿ツヲ不經濟トシいらつめ記者ハ和服ニ靴ヲ穿ツヿヲ欲セズ。裁判官みどり氏ハ下駄ガ文明時代ニ久シク行ハルベキカ愚極マルト云フ恐ロシキ判決ヲ下サレタリ。西洋服ハ裾ヲ曳クモ汚レズ破レズ垢ツカズ磨リ切レザルモノナルヤ渡邊氏ハ西洋ノ事情ニ精シキ人ナリ今一層ノ御研究アランヿヲ希望ス。又文明時代トハ西洋風ノ行ハルヽ時代ヲ申スヿニヤ。下駄ハ其形種々ニシテ晴雨各々其宜シキニ従ヒ坦途泥濘一トシテ行歩ニ適セザルナシ且ツ足指ヲ緊束ル事ナク之ヲ西洋ノ靴ニ比スレバ其進歩數等ノ上ニ在リ。余輩ハ其何故ニ文明時代ニ行ハルヽ能ハサルヤヲ知ルニ苦ムナリ。

第六。渡邊氏ハ日本服ノ下着ノ裏迄モ上等ノ物質ヲ要スルヲ不經濟トシいらつめ記者ハ之ヲ日本人ノ美德トシみどり氏ハ神田ノ兄哥ノ論法ト云フ面白キ評ヲ下シタリ。西洋服ト和服ト孰カ表面ニ露ルヽ面積ガ多キヤ（裏ノ飜轉スル部分ヲモ併セテ）ヲモ算セズメ直ニ經濟不經濟ヲ談ズルハ如何ナル算法ニヤ。此ノ議論ノ如キハ所謂家ヲ抱テ臭キヲ忘ルヽノ類ニハ非サルカ。みどり氏ノ評ハ其旨意ヲ了解スルニ苦ムト雖𪜈盖裏面ナドハドーデモ善シト云フ意ナラン。盖シ物ニハ物相當ト云フヿアリ。釣合ト云フヿアリ。表ニ錦ヲ飾レバ裏ハ襤褸ニテモ可ナリトハみどり氏ト雖𪜈正可ニ明言シ難カルベシ。

第七。和服ハ自分ノ氣ニ適ヒタル樣ニ形ヲ拵ヘ置カザルノ不利アリトハ新シキ考丈ニ惡キ考ナリ。此点ハ和服ノ不利處カ其最モ長所トスル所ナリ。常ニ一定ノ形ヲ拵ヘ置カサルカ故ニ時ニ臨ンテ各自ノ好ム所ニ従ヒ自由ニ其形ヲ造ルヲ得可ク且衣服モ身ノ丈ヨリ少シク長キガ故ニ長クモ短クモ場合ニ從ヒ自由ニ變ズルヲ得ルハ大ナル便利ナリ。若シ又腰ノ周圍ニ皺ヲ作ルガ惡シヽトナラハ身丈一杯ニ仕立ツル迄ノ事ナリ。然ルニ斯ノ如キ瑣末ノ事ヲ以テ和服ノ不便トナスハ笑止千万ノ議論ナリ。况ンヤ之ニ感服スルニ於テオヤ。

第九。渡邊氏ハ和服ノ重着ヲ要スルヲ以テ其開ケ放チタル形ノ罪トシ前部ノ開放ヲ防グカ爲裾ニ澤山ノ綿ヲ入ルヽヲ不便トシいらつめ記者ハ形ノ罪ニ非ス材料ノ罪ナリト主張シみどり氏は材料ヲ變スレバトテ和服ハ矢張開ケ放チタル形ナリト論セリ。渡邊氏ノ旨意ハ開ケ放チタル形ニメ寒キカ故ニ重着ヲ要スト云フニ在ルカ。開放チタル所ハ假令重着スルモ矢張直ニ外部ノ空氣ニ觸ルベシ若シ此目的ニ出ヅレバ重着ニハ何ノ効能モ無キナリ。將タ渡邊氏ノ旨意ハ前部等ノ開放ヲ防グニ重力ヲ以テスルカ爲ニ重着ヲ爲スト云フニ在ルカ。是亦誤レリ。盖シ重着ヲ爲スノ目的ハ寒氣ノ物質ヲ透シテ皮膚ニ進入スルヲ防グニ在ル而已。ふきヲ多クスルガ如キハ開放ヲ防グヨリモ其ノ目的寧ロ裾ノ

廣キヲ欲スルニ在ル而已。

第十。洋服ハ躰ノ下部ニ至ルニ從テ次第ニ擴ガリ日本服ハ始稍細ク中部ニ至リテ大ニ、腰ニ至リテ大ニ細ク裙ニ至リテ稍廣シ。之ヲ譬フルニ洋服ハ猶埃及ノ「ピラミッド」ノ如ク和服ハ猶松柏ノ物表ニ亭々タルガ如シ。彼ハ見ル者ヲシテ基礎堅實ノ思想ヲ生ゼシムベシト雖ドモ割合ニ多量ノ能力ヲ費スノ感ヲ免レズ。是ハ最少ノ能力ヲ以テシテ而シテ基礎ノ堅實ヲ失ハザルモノナリ。優美ノ徳ハ彼ニ無クシテ却テ此ニアリ。之ヲ要スルニ和服ハ或ハ洋服ニ優ルヿアルモ洋服ハ決シテ美術上和服ニ優ルモノト謂フヲ得サルカ如シ。然ルニ渡邊氏ノ斷然和服ヲ醜トシ洋服ヲ美ナリト速了セラレタルハ抑モ何等ノ美術法則ニ據ラレタルヤ。又歩行ノ際足ヲ現ハスヲ以テ下品ナリト論セラルヽヲ見レバ日本古來俚俗ニ行ハルヽ幽靈ノ畵ナドハ尤モ美術ニ適シタルモノカ非カ。みどり氏ハ此點ニ關シテハ別ニ自巳ノ意見ヲ表セザレドモ氏ノ涉考ハ如何ノモノニヤ。

最後ニみどり氏は洋服ノ未來を占ハレタリ。如何ナル卦ニ依て斯ク占ハレタルヤ次デニ御揭載ノ無カリシハ余輩ノ遺憾ニ堪エザル所ナリ。

以上列擧スル所ハ孰レモ瑣末ノ點ニシテ是シキノ議論ニ依テ洋服採用ノ可否ヲ定メント抔トハ案外千万ナリ抑モ束髮ナリ洋服ナリ世ノ改良論者ガ日本國ニ輸入セントセラルヽ旨意ハ那ノ邊ニ存スルヤ。日本ヲ文明ノ域ニ進メ外國ヲシテ日本ヲ尊重セシメ日本ヲシテ歐米ノ文明諸國ト相頡頏スルニ至ラシメント欲スルニアラズヤ蓋シ國際ノ交際ハ猶ホ一個人ノ交際ノ如シ。一個人ノ交際ニ於テ他人ニ尊重セラルヽモノハ汎々トシテ彼岸ニ浮ミ此汀ニ漂フ浮萍的ノ人物ニ非スシテ寧ロ傲然トシテ一巳ノ見識ヲ立テ通サントスル鐵石的ノ人物ニ在リ一國ノ交際ニ於テモ亦此ノ如シ。蓋シ少シハ惡シト知リツヽモ自巳ノ量見ヲ貫徹セントスルノ見識無クテハ善キト知リツヽモ遂ニ一巳ノ意見ヲ拋擲セザルヲ得サルノ不幸ニ陷ヰルヘシ。可成外國ノ物ヲ取ル間敷覺悟ナルカ故ニ發明モ出來智識モ發達スルナリ。若シ常ニ外國ニ依賴シ其寄生虫トナラント欲セハ猿猴ヲ以テ一國ヲ組織スルモ可ナリ。必スシモ萬物ノ靈長タル人類ヲ要セサルナリ。英佛獨米各風俗ヲ異ニシ習慣ヲ異ニス。彼、此ヨリ長スルモノアルヘク此、彼ヨリ短ナル所アルヘシト雖ドモ猶傲然トシテ各其習慣ヲ守リ一歩ト雖ドモ他人ニ假借スルヲ耻トス。是蓋シ諸國ガ創造ノ力ニ富ミ發明ノ母タル一大原因ナルヘシ。而シテ英國就中最モ甚タシトス。去レハトテ余輩ハ決シテ鐵道馬車ヲ廢シテ垂駕籠ニ乘レト云フニ非ス郵便電信ヲ止メテ飛脚ヲ賴ムヘシト主張スルモノニ非ス。一國ノ文化ニ重大ノ關係アルモノニ至テハ不得已ノ不幸トシテ飽ク迄外國ノ長所ヲ取ルヘシ。余輩ハ只其多カラサルヲ恐ルヽナリ。然レドモ多少ノ便否ハアルニモセヨ日本在來ノモノニテモ西洋ノモノニテモ孰ヲ用ユルモ一國ノ力ニ影響ヲ及ホサヽルモノハ少シハ無理ト知リツヽモ自國ヲ保護スルカ一國民の人情ニシテ生存競爭ニ敗ヲ取ラサルカ為最モ必要ナル氣込ナリ。況ンヤ無理ヤリニ外國ノモノニ理屈ヲ付ケルニ於テオヤ。然ルニ利害ノ判然セサルモノ迄モ外國ノ風習ヲ摸擬シ傲然トシテ我コソハ公平無私ニ各國ノ風俗ヲ比較シ彼ノ

長ヲ取テ我カ短ヲ補ヘリ我度量廣キ丁海ノ如シ苟モ美俗トアレバ英ニモアレ獨ニモアレ決シテ人見界ハ爲サヾルナリト獨リ極メニ自負セラル丶モ他人ハ決シテ然カ思ハザルナリ。他人ハ必ス謂ハン彼レハ定見ナシ彼ハ創造力ナシ彼ハ寄生虫ナリ彼與シ易キ而巳ト。他人ニ然カ謂ハル丶モ決シテ無理ナラヌ事ナリ。彼ノ洋服ヲ用ユルニ何程ノ利益アルヤ。前部カ開放スルトカ上下一連續ナリトカ位ノ理由ヲ以テ一朝數百年ノ風習ヲ捨テントス。心アルモノハ之ヲ何トカ言ハン。輕躁ト言ンカ抑モ亦浮薄ト評センカ。他國ノ輕蔑ヲ招キ支那人ニモ見劣ルト言ハル丶モ故ナキニ非ルナリ。知ラス改良論者ハ各個婦人ノ爲洋服ヲ採用セントスルカ將日本國ノ爲洋服ヲ採用セントスルカ。

英國政府が濠洲を發見してより年々囚徒を送りて開墾せしむ囚徒の子孫皆良民となり士に安んじ業を樂む人ありて何故に本國に歸るとを願へずやと問ふ皆眉をひそめて曰く本國ハ是惡徒の巢窟ならん此國の渡來するもの囚徒にあらさるとなしと

流行

衣服

薄紅色の服　薄紅色の單物がすこしづゝ見えると思ふ間に此度はまた仝じやうな色合の袷を日中などには着けて歩行く令嬢があります。　優美は非常に優美ですが帶の取合せが中々六つかしく近頃一寸流行の紅、白、青の曙繻子乃至水形紅淺黄の縮などの帶でも何處か落付かぬやうに見えて居ます。あれは外でも無く衣服の地色が華美な者ですから之に更に華美であしらッてそれで惡いのです。それ故、この類の衣服の帶にはやゝ流行ッて來る薄鐵色繻子の帶などが至極最上です。

帶地　紅と白と青とが曙になッて居る繻子。　水形で紅と淺黄とが白の鹿子で境して染分けてある友禪。　薄鐵色或ハ濃鳩羽鼠綸子(尤も摸樣ハ疎い方)。　その外繻珍は無論。　これが殆ど今の令嬢の主な帶地です。

袷地　南部鷹羽織霜降形など澁いのが一寸人氣に入り、また濃藍のきらつく糸織も可なりです。

袖口の邊へ丁子龍腦麝香などを縫込むこと。　これか近頃の流行です。　香水瓶匂袋入らずです

手の爪を染めること。　むかしも有ッたさうですが、この頃淑女の中で薄紅インキで巧に手の爪を薄色に染める人が大分あります。

銀製淨所櫻の簪　在來の銀製で短册のついて居る淨所櫻の簪を束髮へさす風がすこし出ました。

つゞみざし。　是も嘉永の頃に行はれた、細手の簪を摑挿にする風が些目立ッて島田などに見えます。

寄書

記者白す渡邊鼎氏の洋服論が一たび女學雜誌の紙上に顯れてより前號の本紙批評の欄内に於て社評を試みし處御馴染の久平老人がいらつめの評は手柔に過きるとて左の一編を寄來しました批評欄内に掲けました洋服案討議と重複いたすやうですが老人が淳朴の口氣と美術の思想に至りても流石に割愛もし兼ねますから茲に掲くるといたしました老人が渡邊氏に「年寄れ話しも後學の爲にお聞きなさい」と云ましたが渡邊氏れみならず淑女達にも隨分後學の爲になることゝ記者の請合ふ處です。

婦人の洋服に付て。　　　　久平老人述ぶ。

良暫く御不沙汰致し申譯も御座なく候ふ。（記者曰く、イエイエ、チットも苦しく御座無候ふ）扨ハヤ先日は誠に御不禮申し上げ恐縮の至りに存じ奉り候ふ。隨つて當年は順季も宜しく、渡邊鼎先生の洋服論等持上がり、何かと御心配の段恐悦に存じ奉り候ふ。前號に於て貴社の御辨駁は、扨扨おとなしい事、渡邊先生の十箇條の惡口を大抵立ててやり、「其れも左樣でも西洋には猶更わるい處が有る。」と云ふ論じ方にて、流石は貴婦人相手の御商賣柄とて誠に感心仕る。併ら相手に依ては遠慮なくドシドシ論じて遣るが良くれ御座らんか。久平などれ「其れは左樣でも」抔いふ事は大嫌ひ、左樣で無い事は金輪際左樣で無い。是れから例の彌次馬で、十箇條の洗ひざらひを致さんと存ずるが、貴婦人方の御耳障りが相替らぞ出やうろと甚心配に存じ奉る。去ろし有難い事には記者先生「久平は口がわるいけれども議論が正直で良い。久平も本多作左衛門イヤナニ夢中作左衛門ぢから淑女方御免下されい」。杯と御挨拶の先例が有るもんぢろら、是の處記者先生の愛嬌に依賴し、扨渡邊先生にも堂も御氣の毒ですが（決して御氣にはさへられな、迷盲論者で御座い）御自慢の十箇條は皆んな間違つて居ます。

（第一）　日本婦人服は前部開放せるが故に歩行する時には屡屢現はれ風の吹く時は實に見苦しき有樣にして手を以て之を支ふるに非ざれば安心して歩行すること能はず……

（辨駁）　是れもドアラに細帶位の下等なる御話ならん。東京は隨分風多き地なるが、婦人方が前部を押へて歩行かるるを見た者は未嘗て有りません。又打揃つて見苦しい處をペロペロ出して歩行かるるを見た者も有りません。風吹きの日を注意したり、又は越後獅子の舞踏を覗つたりそる尾籠の紳士が近頃多いから、酒席に周旋そる婦人あぞれ（又出た、失敬の例が）衣類の最内部なる一重の膝の邊に襟留樣の物を掛けて置く者が元つから澤山「有りマサア子」。其れは惡戲の用心が重なので、尋常も衣服の着方が上手なれば決して吹き捲くられる者では有りません。其れぢろら日本婦人は大股に歩行れ得ぬなどと脇へそれる事は御免。又た下等社會や二百十日を基礎とする事それも相成らぬ。兎に角風吹きの日愛宕に登て「而して其の市を觀よ復昔時の」久米仙人ありや否や。西洋人れ言ふ通り日本貴女は衣服の着方が上手で御座い、若い時抔は「緋縮緬少しは風も吹かせたい。」と申す位の者です。

（第二）　長袖は兩手の働に不便なる而巳ならず腋下まで開け放ちてあるが故に戸外に出て强風に遇ふときは腋下胸部の柔軟なる皮膚へ直接に寒風の浸襲する危險あり

（辨駁）胸部はシッカリ合はせて有ります。誰れが胸板や乳を出して居ますか。御話しが下等で堂もならん。

（第三）　日本婦人服は　上下一連續に出來てあり衣服總体の重みは一點の肩に持するが故に呼吸の運動を妨げ又は頭痛腦充血等の誘因となること少からず

（辨駁）上下一連に出來て居ますけれど、之を着るには腰の上ふて恰好善く引き上げ腰帶で締めますから腰帶以下の重さは肩には掛かりません。ドテラ細帶の御話しなら「ブラ御免子ー」

（第四）　帶を大層に腹に巻き着け眞に見惡しきのみか無益の　となり察する處是は品物は澤山ありても智惠の足らない野蠻時代に用ゐ始めたる遺　物ならんか恐らくは世界に無類の惡品といふべきなり

（辨駁）帶を大層に腹ふ巻き付けるは見苦しい」か見苦しく無いか是れは第十條「中部に於て張り出し」の處で御聞かせ申さう。「品物が澤山有て智惠の足りない野蠻時代」とは何時頃の時代ですか、珍しい時代も有る物です。女帶の大層になつたのは元祿から享保までの間で、織り物の進歩は寛文天和の間が著しい。其の天和も元祿も徳川常憲院將軍の時で御座る。さて見れば先生が「察するふ」抔と鹿爪らしく御考に成つた「野蠻時代」は常憲院時代の外は無い。こんな事は御分かり有るまい（舊弊時代の事だから）けれども年寄りの話しも後學の爲め御聞なさい。「野蠻時代」とはおつしやるが此の頃は土佐光信狩野探幽が美術を中興した跡で、殊に常憲院時代の蒔繪と云つば世界古今又と有らざる逸品で御座る。斯く申さば其は美術家だけの事で天下一般で抔と逃口上ドッコイ罷り成らん。美術の名家が一世を靡かすは善く當世の風采を表はすが故なり位の事は御存じで有らう（西洋家だもの）。然らば常憲院時代の好尙を明治時代の吾れ吾れ共が彼れ是れ云ふは傍痛い。某大臣の筆蹟乃至は某女史の粗畫などを樂しむ樣な哀れな時代とは違ひます。但し「美術は野蠻の遺物」と云ふ派に籠城するならば、以後は「見苦しい」と云ふ詞は御廢しが宜しい（ソンナ深いイヤサ瑣細な事は考へないのサ）。

（第五及び第六）は貴社に於ても全く原說を打ち砕かれたから更に辨駁せず。

（第七）　和服は上下一連續にして且つ身の丈より少しく長き故に腰の周圍にて襞を作る等の不便あり

（辨駁）それが即便利の處で御座る。時により場合ひふより優に裾を引く事も出來、裾をキリリと引き上げる事も出來る。

（第八）　和服は洋服の如く自分の氣に適ひたる樣に形を拵へ置かさるか故に外出する度毎に帶の結び恰好を拵へざるを得ず車に乘るときは帶の形を損せさる樣とて背をくの字形にして坐するの究屈あり

（辨駁）場合ひにより、衣服により、時節ふより、年輩により、やの字、箱結び御太鼓、引つ掛け、或は稍大きく、或は稍小さく……其れだから日本貴女の衣服の着方を誉れるのでそ。又「帶の損せぬやうに車ふ乘る時前の方へノメル婦人」抔は見た事なし。「背をくの字ふ曲げ」ても帶の磨れぬ樣ふは乘れぬ物あり、其れ故思ひ切つてシヤンと乘るは丁度西洋婦人か裾を曳ふ未練無きか如し。山出し下女が人力車の初陣でもさやさめいし、ゲイ.ブンノ.ワリイ事チ言つて無しサ。

（第九）　洋服は總体開け放ちたる躰裁にして殆と防寒の用を失するが故に自然數枚の衣服を重ねざるを得さるのみか殊に裾の方に澤山綿を入て重みを加へ裾の開放を妨くを以て不便極まる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

（辨駁）數枚を重ぬるは美麗の爲です。御覽なさい、東京の氣候では平日ハ綿入一枚胴着一枚位が通例で、美服の時に三枚も四枚も重ねるのです。又キッチリしたる衣服が暖いか、ブワブワする衣服が暖いかは物理階梯でも御覽に成れば分かりますと久平が孫共の忠告です。孫綿を厚くするは「重みを加へ孫の開放を妨ぐ」とハ拙拙折角の御考へなれどあれハナ、厚肥えたる服の蹲座の姿態を取るのです、猶次の條をも御參考なさい。

（第十）日本婦人の服裝ハ總体體の中部に於て張り出し足の方に至り隘ませる故身体低く見え且足の歩みも現に見え何となく下品にして惡るし

（辨駁）「中部に於て張り出し」たる者ハ天工物に於ても種種の植物皆之に屬します。人工物でハ花瓶の如き者まづまづ二千五百年代の好尙には美しい姿としか見えません。古物の穿鑿から申しても「中部に於て張り出したる者」を賞翫する事は歷史以前か土器でも明であり升。安全の姿と巧妙の趣の差別はいらつめ十二號の束髮論を御覽なさい。孫つ張のみを賞翫なさる樣ではまだまだ美術の御咄ハ致にくい。

今日四海兄弟の時節柄とは申し乍ら久平抔ハまだまだ「父ハ子の爲に隱し子ハ父の爲に隱そ」のが人情だと思ひます。まして斯かる無實の醜態を擧げて外國人に向て訴人となり、證人となるは若氣の至りと申すもの、成らう事なら願ひ下げに成さいまし。久平が孫共から御傳言には何も洋服の十箇條抔を書かずとも、ソコイラの雜誌屋の親方ゟら耶蘇の十ケ條でも受けるが善う御座る。

（9,）'Thou shalt not bear false witness against thy neighbour.' アーメン、アーメン」と申しましたが、何だか久平には一向分からん、アーメンドウ、アーメンドウ。

化粧

齒の色の黃色なのを除く法

ことは些六ッかしい法ですから御用心なさい。あまり度の强くない硫酸を襤褸に浸し、それ襤褸で汚ない處を輕く拭ふのです。これで汚點ハ去りますが、さてあとでよく淸水で硫酸を洗ひ落とさないでは咽喉へ呑下しても害になり、また唇の粘膜なども腐れます。

爪をうるはしくそる法

稀硫酸二ドラクマ、沒藥丁幾一ドラクマ、之をあはせて一種の液をつくり、さてまづ白石鹼で丁寧に爪を洗ッたのち、その指を前の液へ浸すのです。

髮垢を去る法

硼砂（細末）　半オンス　龍腦（或は樟腦でもよし）一オンス。この二種を瓶へ入れ、適宜に熱湯を加へ（凡そ一合ほど）そのまゝ冷えるまで瓶に强く蓋をし、冷えれば硝子德利へ入れて貯へて置くのです。さて用ゐるには右の液をすこし木棉の切かスポンジへ浸し、それで頭の肌を洗ふのです。非常に成効のある法です。

次號に記載する化粧法品々
黒子を去る法
木棉リンチンなどに芳香をつける法

近刊批評

文覺上人勸進帳

依田百川、河尻寶岑二氏合作、東京本町三丁目金港堂出版

從來の謠曲安宅は虚を以て實とした作、そしてこの勸進帳は實をそのまゝに補綴した作、要するに四五百年前の安宅が今になッて始めて伴侶を得たのです、此二ッは好い一對です。筋といひ、文句といひ、之を吉野拾遺名歌譽に比ぶれば兎に角良にまさッた物で、さてまたその文句を謠曲安宅に比べたら如何でしやう。「袖やしほるらん」の秀句の相手がこの新勸進帳にありましやうか。「時しも頃は」の面白さがこの文覺上人にありましやうか。道具立は可なり妙です。あまり變化の急なのが白玉の微瑕とは言ふものゝ、まづ拙ではありません。が、眼目の文句の一段は……記者の眼が眩んで居るためか價値ありさうなのは見えません。

渡邊傳と隔衣との婚禮、雜人ばらの口から文覺の事を出すこと、又は花笠の一條など無用に似て無用でないあしらひは流石老練の御腕前でそ。

從來の安宅は事實が虚であッたゞけ文句の巧麗がその欠點を補ひ、今度の新勸進帳は事實が實であるだけ文句の最上で無いのが欠點を作ッて居ます。概してどうしても前後一對です。

新婦人

新婦人の表紙を見て首を傾けないものはありますまい女學雜誌記者は何か寓意があるのだらうと邪推し貴女の友記者は變な洋文字杯と評しましたが新婦人記者は陳腐なとが嫌ひなから新趣向の通音でMotherをMatherとされたのだらうとは又いらつめ記者の當推量。ズが當るか當らぬかわからない又The New Woman は新婦人の直譯でしやうが新婦人といふとが分らないから矢張此直譯で分りません强ち hair-cutter と書いた散髪床の看板ばかりが間違つて有とも申されません。

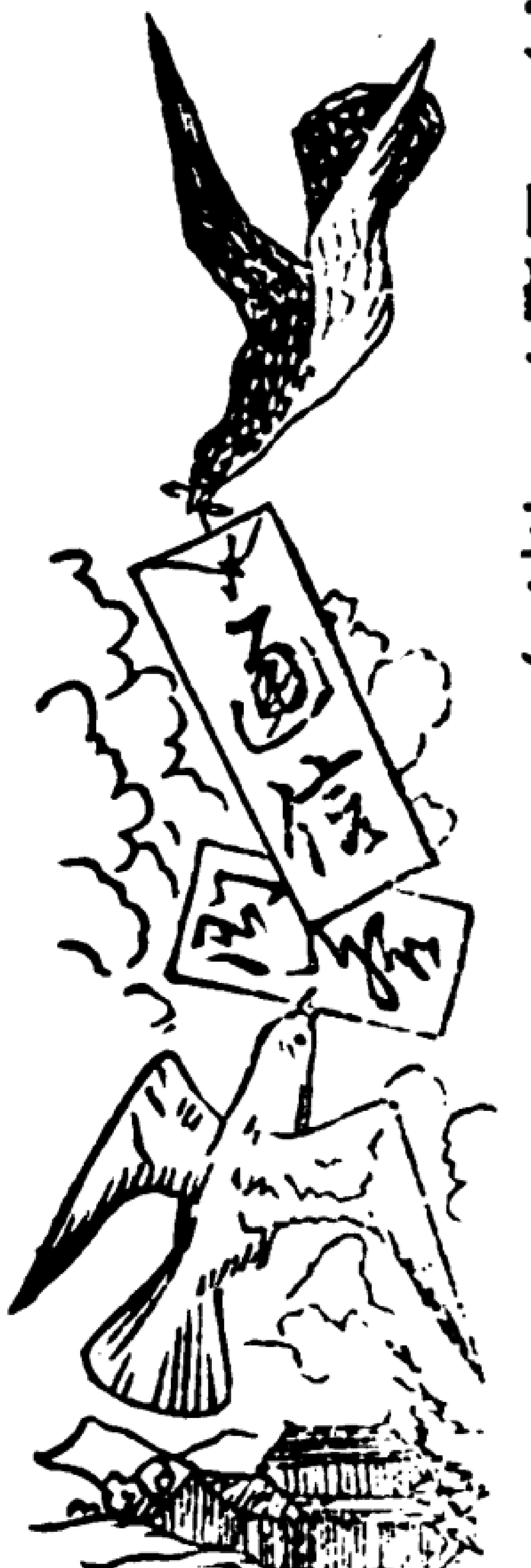
それはさておき發行の主意を拜見いたしましやう。先づ一步讓ッて口を借りて風俗の激變より說き起し改良說は萬に逢へる花を觀るの心地ありと說き其改良說の成らざりしは改良說者の妄想より起りたる罪なりとし其妄想を寫えたる所は一も肯綮に中らず最極端なる改良論者といへども恐らくば新婦人記者が云へる如き幼稚にして無謀なる考を有したるものはなかりしならん無き罪の爲に强いらるゝ改良記者も亦冤といふべし。それから記者自ら其抱負する所を述て「眞正の改良は新婦人を養成するに在り」といひ其新婦人とは「明治の新智識を具へ文明の新學藝に達し日本の富財上に大利益を與へ世態人情に明敏なる婦人をいふ」といふ恐ろしき定義下し尚男女の關係に付きては男女同權而も參政權まで女子に取らせんずる同權主義です「男女の間に存する智識の權衡を見よ政治を取扱ふ立派なる建物も男子の區域にあらん」と今日の有樣を批難せるを見ても明です。か樣な大層なる企望を有し乍ら

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其方畧に至ては「今や一箇人の生命だに損せず一文錢だに擘せずして僅々たる歳月と辨説とを以て買ひ得べき眞正の文明即新婦人を養成に至てハ豈奮發熱心して之を勤さる可んや」といへり何ハ兎もあれ此主義と此方略で養成された所の新婦人ハ如何なる者でしやう刮目して御手際を拜見いたしませう

君子と淑女

新婦人の誕生を隔つると僅五六日後れて生れた「君子と淑女」ハ窈窕たる淑女ハ君子の好仇といふ心を畫樣に顯し吻々氏の所説にハ吻々氏の夢の記とも申すべき者を載せられさるが本來取留めなく一向に譯のわからぬが夢の特質です此夢の記もよく此特質を表ハして居ます、全篇支那主義を以て固められたる處は冴え反て却て珍しうムいます別段評する程のとハありません唯君子と淑女ハ十月一日を以て其第一號を發兌されたと吹聽する丈です。



注意　淑女の方々から御問合にあつた事をば大抵答を附けて毎號このやうに掲載いたします。

御問合の時はなるたけ文章を平易に文字を鮮明に御書き下さいませ。　二個以上の御問合にハ一々番號を附けて御問合せ下さい

不道徳な御問合などすべて掲載して差支あるものは悉く御答をしません。

御答もあるたけ迅速にする心得ですが、彼是調査する事もあり、かつ取捨いたしますことゆゑ、時に遲れる事もムいましやう。　また重要な問題或は記者の意見で答へられませんのには終尾に問として世間の博識らの御教を願ひます。

大抵發兌の月の初旬の五日までに御問合になつた分は其月發兌のいらつめで御答をします。

もみぢ樣へ　「燒餅を燒く」といふよりは「羨む」とか「妬む」とか言ふ方が淑女貴婦人の言葉でせう。

紫園令嬢へ　ハンケチで會話をする法を御尋ねになりますが、是には些猥褻な意味の仕方も有りますから其處だけを抜いて御答申しましやう。　唇へ當てゝ引張るのは「御近付になりたい」との意味。　兩方の手でぐるぐる回すのは「構はない」といふ意味。　疊むのは「話したい事がある」といふ意味。　目へ當てるのハ「氣の毒」といふ意味。　落すのは「交際しやう」といふ意味。　手へ當てるのは「私ハ貴下を好まぬ」といふ意味。　頬へ當てるのも「私は貴下を好む」といふ意味。　肩へ掛けるのハ跡から御出で」といふ意味。　右の頬へ當るのは「左樣です」といふ意味。　左の頬へ當てるのは「否」といふ意味。　このくらゐなもので其他ハ畧します。

高木艶子さまへ　（一）久しく用ゐて黄色になつたフラ子ルをばアンモニヤの強い石鹸で洗ふのが一番です。（二）それ御病氣ハ姑息な療治でハいけませんからたしかな醫者に御頼みなさい。

大島令嬢へ　犢牛の生肉を顔へ塗れば皺が出來ぬといふ事は仰のとほり日本の女學にも出て居ましたが、記者にはまだ分解りません。が、全体湯で顔を洗ふのは皺を早く招くとすで、出來るだけは冷水で洗ふのに越したとは有りません。

伊東はま子様へ　御尋の事はあの號の流行欄内に出て居ます。

南嶺女史へ　新流行御投寄の段御禮を申します。

岡田とり子さまへ　（一）御尋ねの日本字モノグラムは次號からいらつめの流行欄内に出します。　（二）水引は必ず紅を右の方にする物で、結切りは婚禮葬禮など二度無いやうに願ふ時のこと、また高結びは其餘一切の時に用ゐます。　（三）物に添へて來る熨斗は必ず返却するものです。　（四）夜の到來物には紙も附木も入れずに返して宜うムいます。

江崎さまへ　まづ左右へひろげてのち其手を一處に集めるのは藝妓などが爲る御辭儀の風です、淑女方には好ましくありません。

はな子さまへ　著物は必ずシッケを外して用るものです。帛紗ばかりは拵らへた當座だけシッケを附けて用ゐてもまづ差支はありませんが、あまり好ましい事ではありません。

二八の少女さまへ　御申越の小紋形は貴娘の御年頃にはジミ過ぎて居ます。

一條令嬢へ　（一）白山羊の手袋は洗濯屋へやッて洗はせなさる方がよろしうムいます。　（二）御尋のやうな法では決してうまくは出來ません。　（二）御尋の絹は日本絹ですか？　もし左様なら迚もシャンパンの汚點は素人に取れません。

園子様へ　顔の臉燒は多血性の徴です二才の頃まであり其の後十二三年の間消え失せ又々見えたのは何か血の變動でムいましやう之を治すには毎朝カルヽス泉鹽二十グラム（五匁三分程）を茶碗一杯の微温湯に溶して一ヶ月計服用なされたならば急度効能が有ます尤初の程も下痢いたしますが更に障るものではなく極めて安全なものですから安心してお用ゐなさい。

絹子嬢へ　第一　小豆を早く煮るには砂糖を少し入れて御煮なさい。　第二　松魚節の虫を防ぐには酒を塗るが最簡便です。

文子夫人へ　第一　銀貨を菌と共に煮れば若し毒のある菌なれば銀貨が黒くなります。　黒くならなければ毒でありません。　第二　通常鹽漬にしますがソレでは松茸固有の風味がへりますから松脂を粉にして鹽に混せてお漬けなさい。

山本氏へ　水五合硫酸一勺の割合にて和したる者にて銅鍋の内を洗ひ且つ細き砂にて磨き水を注ぎて之を洗ひ能く布にて拭き火の上におき熱くなりたるを待て硼砂を入れ錫を入れ　錫の鎔けたるとき布にて鍋全体へ塗るのです水と硫酸は必らず藥舗にて混せておもらひなさい左もないと大しい怪我をします。

時子嬢へ　第一　「ろすていら」をふくらすには灰のアクを入れて燒けばよいです。　第二　初め酢を少し入れてユデれば殻共に卵子を切ることが出來ます。

倉子嬢へ　簿記學に付てのお尋は少許調べ兼ねました箇條がムいますから次號發兌の日まで御猶豫を。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

餘興

新謎 十一月五日〆切　一日の猶豫もなし

左の謎皆當方のみは金港堂出版の冊錢より四十錢以下の

小說三冊進上致ますす

五ッ以當の方みは例の通いらつめ二冊進上仕候

御注意 爾來ハ別紙の解答用紙に御記載被下度若し左もなき分解答と沒書くく

(一)　出題者　花のや

切ても切ても減らぬ物はなんでおまそ?、水ではありませんよ

(二)　出題者　松孃

毎日極必要あもので減れば減る程殖え殖えれば殖える程減るものハ何ですハラ六ケ敷いナアー

(三)　出題者　松孃

をれハいきものぞよ。めもありハなもある。けれどもおめヱらのめやハあのやうにみたりきいたりするやくにはたゝ子ーをれをぶれたとおもふ?

(四)　出題者　松孃

妾に目のある内は皆さんの極く〳〵大切あものでムいまそらが目が潰れまそとソレハ〳〵いやアな怖い皆樣の大お嫌のものみなります

(五)　出題者　松孃

わたしは生物で何處にもありまそら富士山のまわりにムいまして水がムいますので此世みあります。

(六)　出題者　松孃

私に向つて來るものは油斷がありませんから非常に苦勞を與へます又私に背を見せる樣あ臆病者には可愛さうでムいますから樂をさせてやりまそ私はダーレ?

いらつめ第十五號謎の答

(一)つね。(二)蠟燭。(三)街燈。(四)辻占と新聞紙。(五)車の輾る音。

右皆答者ハ

館村さとゞ▲中村つや▲川又逸子▲那須かね▲保刈美澤▲高橋友子▲竹中貞野松枝▲田龍溜▲安田もゝ▲稻垣貞子▲高田光子▲郞山居士▲外田繁子▲岩本一枝▲江崎操子▲吉澤猪三郞▲森山濱江▲河邊碩▲高取ます▲柏倉しろ▲谷川靜▲星野登美▲アイ、エス、▲森島寛子▲關口直佳內▲朋文舍▲せきくち內▲山崎▲齋藤しえ▲如水山人

月報

○皇女御降誕　掌侍正六位園祥子みは去月三十日午前六時二十分分娩皇女御降誕あらせられ本月六日は命名式を行はせられ泰名を昌子內親王と稱號を常宮とは命名あらせられたり。

○寶冠章　曾て制定相成りたる寶冠章を各皇族御息所及び諸大臣夫人其他數名へ彌く遠からぞ授與せらるべき由みて目下賞勳局に於て取調中ある由み承る

○日本赤十字社　同社みては本月廿六日上野公園內華族會館に於てゝ萬國赤十字社創立二十五年紀祝典を執行し當日　皇后陛下の行啓を仰ぎ義きみ　勅裁を蒙りたる社員章を頒付し併て有功章授與式を執行するとに決したりと云ふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○海軍武官女子敎育會組　今度横須賀鎭守府參謀長黑岡大佐が發起ふて在横須賀高等武官の妻女姉妹を敎育せん爲め造船所官舍を借受け三年を卒業期として內外敎師を招聘して普通學を敎授せらる由。

○高等女學校敎頭能勢榮氏演說。當學年の始に當り能勢氏が高等女學校に於てあしたる演說ハ今日女子敎育の肯綮に中ると思惟するか故に玆に最も緊要ある箇條を摘載す

百圓ノ價値アル一言。

偖是ヨリハ皆樣ヘ百圓ノ價値アル一言ヲナスベケレバ、能ク注意シテ聽カルベシ、予カ唯ダ今御話致スモノハ請ケ賣リナレバ、實際五十圓位ノ價値モアランカ、是レハ昔韃靼ノ王カ旅行セシトキ、一僧王ニ告ケテ曰ク、吾レニ百金ヲ與ヘバ當ニ敎訓ノ語ヲ授クベシト、王從者ヲシテ百金ヲ與ヘシム、僧曰ク、其終リヲ熟慮セザレバ事ヲ始ムル勿レト、今予カ斯ノ如キコトヲ御話致ス所以ハ、皆樣ノ內ニハ或ハ終リハ如何トノコトヲ考ヘズシテ居ラルル方モアランカト存ズルニヨリ、些カ御注意ノタメ御話申ス次第ナリ。

右ノ金言ハ英語ト(ピヤノ)ノタメニ申上タル事ナレバ、先ツ(ピヤノ)ノ事ヨリ御話致サンカ、(ピヤノ)ハ如何ニモ高尙優美ノ樂器ニテ、西洋ニテモ最良ノ樂器トナスモノナレドモ、其價甚貴ク通常千圓前後ニシテ、廉價ノモノニテモ四、五百圓ヲ下ラズ、又(ピヤノ)ハ其形大ニシテ且重キモノナレバ、八疊ノ坐敷位ニ置クトキハ不釣合ナルノミナラズ、疊モ爲ニメリ込ムベシ、故ニ(ピヤノ)ヲ置クニハ是非トモ家屋ヲ西洋作リトナシ、床板ノ上ニ(カーパット)ニテモ敷カザルガベラズ、西洋トテモ通常ノ人ハ(ピヤノ)ヲ購求スルヿアタハザル者多シ、況ンヤ日本國ノ富ノ度ヨリ見レバ、勅任官ニアラザレバ奏任官一等位、否ラザレバ豪商豪農ニ非ザレバ相應セザルナリ、尤モ勅任官トテモ盡ク(ピヤノ)ヲ購求スル程ノ資力アリトハ斷言ス可ラズ、予ノ聞ク處ロニ依レバ、或ル勅任官ノ奧樣ノ御話ニ此度ハ折角(ピヤノ)ヲ買ハントセシニ、且那ノ馬車ヲ買ハレシ爲ニ(ピヤノ)ヲ買フ能ハズト申サレタリト云ヘリ、以テ我國ノ現狀上等社會ト雖一槪ニ(ピヤノ)ヲ買フ資力アリト云フ可サルヲ知ル可シ」

從前ヨリ本校ニ入學シタル方々ハ兎ニ角、新入學ノ六十餘人ノ方々ヘ殊ニ御話致スベシ、學問ナルモノハ天性ノ學才ト資力トニッナガラ兼子有セサレバ、容易ニ成就スベキ者ニアラズ、故ニ(ピヤノ)ヲ學バントスルニモ、十分之ヲ買フベキ資力アリト思フモノハ差支ナケレドモ、此ノ如キ資力ニ乏シト思フモノハ、初メヨリ他ノ學科ヲ撰フ方適當ナラン。

從前ヨリ本校ヘ入學セラレタル方々ハ、其邊ノ御考アルハ勿論ノ事ト思フナレドモ、万一右ノ御考ヘナク唯世ノ風潮ニ連レテ(ピヤノ)ヲ學習セラルル方々アラバ、此際能ク御熟考アリタキモノナリ或ル父兄方ノ御話ニ私ノ娘ハ平生高等女學校ニテ(ピヤノ)ナルモノヲ學習スル由ナルカ、如何ナル事ヲナスモノニヤ一見致シタキモノト思ヒシニ、幸ヒ卒業式ニテ來リテ見レバ、彼ノ(ピヤノ)ナルモノハ黑塗ナル四角ナモノニテ、シカモ其形大ニ甚立派ナモノニシテ、之ヲ叩クトキハ(ポン〳〵)ト音ノスルモノナリケレハ、始メテ(ピヤノ)ナルモノハ此ノ如キモノナリトノ事ヲ了解セリトノコトナリシ、若シモ斯ノ如ク父兄ノ方々モ何モ知ラズシテ、娘ヲシテ(ピヤノ)ヲ(ポン〳〵)叩カセ、本人モ何モ知ラズシテ(ピヤノ)ヲポン〳〵ト叩クトキハ、其結果ハ如何ナルモノニヤ。

凡テ物事ハ是ヨリ後ハ如何トノ見定ヲ附ケテ、然後之ヲ為セバ失敗セザルモノナリ、故ニ皆様モ先ツ今後ノ有様ヲ考ヘザルベカラズ、今日我國ノ富ノ度ハ、西洋ヨリ下ルコトハ前述ノ如シ、西洋ニテハ國人ノ財産ヲ平均スレバ、一人前七八十圓ヲ下ラザルベケレドモ、我日本ニテハ七八十圓ハ愚カ四五圓ニモ當ラザルベシ、予ガ如キモ自ラ下等社會ニアラズト思ヘリ、尤モ上等社會ニアラザルハ勿論ナレドモ、先以テ中等社會ノ中ニ入ルナランカ、然ルニ予ノ如キハ迚モ(ピヤノ)ヲ購求スルノ資力ナシ、此學校ハ中等社會ノ人ヲ養成スルトコロナレバ、學科ノ撰擇モ自ラ中等社會ニ適當セザルヘカラズ、上等社會ノ學校ハ、赤坂、門内、雲州屋敷ニアルトノコトナリ。手藝書學ノ如キハ如何ナル人ニテモ出來ルモノニテ、其上必要ニシテ樂ミ多キモノナレバ其邊ハ能ク御考ノ上御稽古アランコトヲ望ム。

偖又當校ニテ英語ヲ學ブハ、世間ノ流行ニ連レタルニアラズシテ、一見識アリテ為スコトナレバ、其ノ邊モ御承知アリテ、徒ラニ世間流行ノ英語熱ニ浮カサレザル様致シタキモノナリ、今ノ日本ノ開化ハ多ク西洋ノ開化ヲ移シ來リタルモノナレバ、今日日本ノ女子ガ夫ヲ助ケテ世ニ立タントスルニハ、兎ニ角西洋ノ書ニツキ、西洋人ノ思想ヲ理會シ、併セテ自己ノ思想ヲ養成セザルベカラズ、ソレガ為ニ本校ニテ英語ヲ學ブ次第ナリ、故ニ本校ニテ英語ヲ學ブハ唯西洋人ト話ヲナスタメニアラズ、徒ニ英書ヲ讀ムタメニモアラズ、然ルニ右ノ考モナク、唯世間ノ流行ニ連レ、英語英語トテ之ヲ學ブハ、大ナル謬見ト謂フベシ、唯英語ニ上達シタリトテ、日本ノ事ヲ知ラザレバ、何ノ役ニモ立タザルナリ、此頃承ルニ或ル西洋人ノ集ル處ヘ、英語ニ上達シタル貴婦人行キタリシガ長崎ノ稲佐山ノ話出テ、其處ニ寄リ集ヒタル西洋人ハ、皆其風景ノ絶佳ナルヲ賞シ合ヘリ、然ルニ英語ニ上達シタル貴女ハ其何レニアルヤヲ知ラズシテ、西洋人ニ向ヒテ其土地ハ何レノ國ニアリヤト尋ネタルニ、其土地ハ卿ノ國ニアリト言ハレテ為ニ一驚ヲ喫シタリト云フ、此ノ如ク自國ノ事モ知ラス、又女子ニ必要ノ日本地理ノコトヲモ知ラズシテ、唯英語ノミヲ學ブトキハ、往々此ノ如キ失敗ヲ受クルコトアリ、尤モ專ラ英語ノミヲ學ブハ、通辨官ニテモ為ラントスルニハ宜シカルベケレ𪜈、人物ヲ作ルタメニハナラサルナリ、又日本ノ言辭ナレバ少少ニテモ學ベバ學ブ程ノ益アレドモ外國ノ言辭ハ少少學ビタリトテ、何ノ役ニモ立タサルナリ、故ニ英語ヲ學フ以上ハ、相應ニ役ニ立ツ迄學バサルベカラサルナリ。本校ノ教則ニテハ、小學校ニテ第二リードル迄學習シ、當校ヘ來リテ第三リードルヨリ始メ、卒業迄ニハ先ツ其大体ニ通スル筈ナリ、何分英語ト(ピヤノ)ノ事ハ、先以テ目的ヲ立テ、然ル後之ヲ學習セサルヘカラス、若シ漫然世ノ流行ニ連レテ之ヲ學習スルトキハ、異日ノ後悔ヲ來スベケレバ、唯今茲ニ御注意申置クナリ。

本校生徒風義ノ事

偖予ハ今皆様ニ向テ其風儀ハ活潑ニセヨ、若クハ從順ニセヨト言フコトヲ好マサルナリ、何トナレハ各其程度アレバナリ、但活潑ニシテ其度ヲ過グレバ生意氣トナリ、從順ニシテ其度ヲ過グレバ卑屈トナルベシ。生意氣トハ全ク知識ヲ有セサルモノニアルニアラズ、又完全ノ知識ヲ有スルモノニモアルニアラズ、恰モ知ルト知ラサルトノ間ニアルモノニシテ、人ハ其男タルト女タルトヲ問ハズ、一生ノ中一度ハ必此時期(ステーヂ)ヲ經過スルヲ免レズ而シテ其何時ニ經過スルヤト云ハバ、又恰モ皆様ノ位ノ年比ノ時ニテ、此學校ノ生徒タル知識位ノ程度ノ時ニアルナリ。皆様ノ知識ハ恰モ中位ニシテ無識ヨリ多ク、有識ヨリ少シ、然レドモ通常一般ノ世界ハ無識ノモノ多ケレバ、一般人ニ比スレハ先ツ物知リノ様ニ思ハルルナリ、故ニ動モスレバ一般人ヲ標準トシテ、自分ヲ買ヒ過キ自然生意氣ニ陷ルニ至ル、故ニ此弊ヲ避ケントスルニハ、自分ヨリ優等ノモノヲ以テ標準トナサザルベカラズ、今皆様ハ其標準ヲ求メント欲セバ先以テ本校女教員ノ中ニ就テ之ヲ求ムルヲ便トス、尤モ女教員ノ中ニモ活潑ナル方モアラン、從順ナル方モアラン、故ニ活潑ナル方ハ從順ニ就キ、從順ナル方ハ活潑ニ就キ、以テ其適度ヲ得ンコトヲ務メハ、皆様ノ風儀ハ始メテ完全無缺ナルベシ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

本校生徒タルベキ資格ノコト。

今玆ニ本校生徒タルヘキ資格ノ標準ヲ智德體ノ三ツニ分チテ示サン。

德、心意ヲ誠ニシ、志操ヲ高クシ、言語ヲ正ウシ、動作ヲ優クシ、父母ニ對シテハ從順、感恩、尊敬愛情ヲ表シ、兄弟、姉妹ノ間ハ同憐ノ情ヲ深クシ、學友ト交リテハ信義ヲ守リ、親切ヲ盡シ、己レノ喜バサルコトモ能ク之ヲ堪忍シ、人ノ欲スル所ニ從ヒ、好テ人ノ事ヲ勤メ、教師ニ對シテモ父母ニ對スル如クシ、平生心氣ヲ爽快平穩ニシ、人ニ對シ愛嬌ヲ呈シ苟モ哀泣、忿怒、怨恨、嫉妬等ノ劣情ヲ表ハサス、務メテ人ノ善ヲ稱シ、人ノ惡ヲ言ハズ、卒業ノ後ハ良妻賢母タルニ足ルベキ德ヲ備フ。

智。本邦通常ノ文學ニ通シ殊ニ書牘文ヲ巧ミニシ、西洋開化ノ狀態ヲ理會スル丈ノ英語ヲ讀ミ、來客ノ外國人ト一ト通リノ談話ヲ爲スニ差支ナキ丈ノ英語ニ通シ、內外ノ地理ヲ知リ、本邦古今ノ歷史ヲ諳シ、家計ヲ整理シ、幼兒ニ教フルニ足ル丈ノ數學ニ通シ、物理、化學、博物、生理、衞生、教育學ノ大意ヲ辨知シ、傍ラ音樂、習字、圖畫、手藝ノ如キ藝能ヲ一ト通リ習得シ、尋常中學校及ヒ師範學校卒業ノ男子ト略ホ均シキ智識ヲ備フ。

體。勞佚ノ輪換ヲシテ定規アラシメ起臥ノ時ヲ定メ、飮食ヲ節シ、毎日運動ヲ爲シ常ニ健康ヲ保持スルコトヲ勉メ。頭裝ハ束髮ニ結ヒ、服裝ハ和服洋服其ノ好ム處ニ從フモ勉メテ閑雅ト質素ヲ旨トシ決シテ驕奢華美ノ風ナク而シテ又單獨異樣ノ風モナク通常心ヲ以テ一般中等社會ノ有樣ヲ通觀シテ以テ自ラ斟酌ス

○保姆講習所　木寺安敎氏ハ此度芝公園地內共立幼稚園內を借用して私立幼稚園保姆講習所と云ふを設立し十八年以上四十年以下の婦女にして小兒開誘法諸遊嬉及唱歌等を修めんとする者の爲めに專ら速成を主として之を敎授せんとの目的にて去月廿一日同氏より府廳へ出願せられたりと云ふ

○石黑軍醫總監の獨逸婦人說　此頃ろ北越醫會の席上に於て同總監が洋行歸りの談話あんたる中に云く日本婦人ハ何卒獨逸の婦人を學ぶやうに仕度し獨逸に參つて上流婦人の有樣を見るに其の儉約質素なると實に驚ろく斗りなり首や腕の飾りにても銀の品より用ひたる者なし只だ婚姻の時にのみ黃金にて製しゐるを使ふとぞ而して下女を使ふ者も甚だ少く臺所の仕事をも自ら手を下して働らく程あり云々とありき訪問遊樂に日を遣るを西洋風と考ふる方々は三省そへきとにこそ

○東京女學の移轉　同學は去る明治廿年の春芝兼房町に創設せし以來日を追て盛大に赴き目下生徒の數を增加しゐるが爲め迚も從來の校舍にては間に合はさる故先般來其新築の計畫もありたれど是れ亦急速の間に合はず去りとて其新築を待つ譯にも行き難きより遂に今回芝南佐久間町貳丁目一番地へ移轉する事と相成りたる由且つ同學にては今度一層規模を擴張したるが爲め舊來の規則を大に改良し學士講師數名を增聘し倘別に音樂專科なども設けミス、カクランは英語學敎授の餘を以て親しく原書に付きて音樂科の敎授を引き受け伊東まさ子氏には專ら英學の敎師として聘せられ文學士杉江輔人をば經濟學講師として學士某氏は理化博物講師として水澤つく子氏は書學漢學の敎師として今般何れも聘せられたる由なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

煖室法續　我邦では火鉢を抱いて雪見をしたり大廣間の正中に火鉢を置きますから是非なく火鉢にシカミ付かねはなりません。然るに炭酸瓦斯は左程毒にはなりませんが若し室を締切り炭火を熾にしましたならば炭酸瓦斯の代に酸化炭素瓦斯といふ毒瓦斯が立ちます。此瓦斯が室内に充ちましたならば人間の血の中から酸素を奪ひますから忽ち頭痛眩暈惡氣を催し時によれは氣絶することがあります。もし氣絶したる場合には手早く戸外に運出し一時間計も手を以て胸を壓へ或は離して呼吸を助けるか又は他人の鮮血を灌ぐのです。かやうに恐ろしいものですから火鉢は一切廢して仕舞たいが迚も行はれる話でないから火鉢を用ゐるとして害を除くやうに心掛けるより仕方はありません。火鉢の害は酸化炭素瓦斯を生ずるからですこれを防ぐには狹き室を締切らぬも一法ですが室内では火鉢に炭を添へぬが第一ですもし火が切れましたならば勝手より熾紅火を取寄せて添へるやうにいたしたいものです肺病人の病床などでは尚更のことです。扨ストーブにも色々の拵方がありまして随て其功能も優劣があります。全体ストーブは引導熱を應用するから火鉢に優るのですが壁の中へ造り付けのカミン。ストーブの如きは發射熱をいだす計りにて其内に生ずる熱の十分の九は烟突から逃げて仕舞唯其側に近寄るもののみを煖めて室内を煖めるをはありません實に石炭ばかり澤山費えてつまらぬ者です。陶器製のカーヘル。ストーブは其側甚だ厚くて引導熱によりて室を煖めますから体には溫に感じますが薄き鐵側のストーブは直と熱くなり石炭を添ゆることを怠りますと直冷えます。又烟突の管を螺旋狀に造つたのもありますがこれは餘り熱すぎて頭痛を催すことがあります」鐵側のストーブを紅く成迄火を強く致し升と例の酸化炭素と云毒瓦斯が事に寄と鐵を通して出ますから大害をなしますそこで約めて申さばストーブは壁に造付のものはよろしからず側は厚ければ厚きほどよいのです。近頃煖室と通氣とを一時に出來るストーブを工夫いたしました。是は二重側にいたしまして側と側との間の空處は上方は直に室の空氣と通ずるやうになし下方はまた室外の新鮮の空氣と通ずるやうになつてをります。此ストーブに火を入れますと側と側との間の空氣が熱しますから輕くなりて室内にいり其空處は新鮮の空氣を以て補ひます。ですから室内はいつも煖い新鮮の空氣を以て滿されます。これは隨分良しき思付ですが日本位の寒さの國では効能こそあれ極々の寒國へ參りましては此ストー

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ブも餘りよくはありません。なぜなればかやうな寒國では狹い方もはげしく隨て空氣の流通もはやうあり冷き空氣が矢を射る如くに突入りますから余り益にも立ちません。

大きな室だとストーブが澤山いりますが一でよい方があります。それには三の法があります。地面に穴倉を堀り其中にストーブを作り　第一　水を溫めて　第二　水を蒸氣にして　第三　空氣を煖めて室にいれるの三ッです。空氣で室を煖める法は前に述べましたから重ねては申ません。一体此法でいたしますと天井と床と溫度が違ひまして室が一樣に煖まりません其上ゴミなどが澤山這入ますからよい法ではありません。　外の二は管の作用で室へ通はせるのですが中々金のかゝるにお頓着なきお方は衛生上に無論一番よいのですから蒸氣で室を煖めるストーブをお作りなさい。　けれども日本の家には以上の法は適しませんから通常のストーブが宜うムいます。

室を煖めるため空氣のあしくなるとを申しましやうなら石炭や薪を燃しますと炭酸瓦斯ができますから西洋造は勿論日本の家でも折々障子や窓をあけて空氣を替えなくてはいけません。

燈火の話　日が暮れますと是非とも燈が必用でムいますがさてなにが一番よいか品定めを致しましやう。　近頃迄は行燈を專ら用ゐ近頃はランプを大概用ゐます。　一体アカリは文明開化の度と同じに進むもので大古は暗くなると直ぐ臥てしまつたものです。　それが段々進みまして蠟燭から瓦斯となり最後に電氣となりはてました。　抑も燈明は衛生上から如何なる關係を人間にもつものかと申すに第一眼に關するもの第二に空氣があしくなります燈がくらければ眼の疲るゝは誰方も御存し又燈光が强過きて眼をわるくする例は幾らもある事で天氣の日に雪の中を歩いて御覽なさい後で眼がキラ／＼して痛みます又日蝕を見て眼を惡くした者もあります。燈光の强きときはよはくするとが肝心で通常靑い眼鏡を掛けますが灰色が一番よろしいです。

燈光の色　燈光に種々の色があります石油と瓦斯には黃と赤の色が多くエレキの光には靑と菫葉色が多いです　其內眼の爲めには靑がよい尤も近頃黃がよいと云ふ人もあります。

燈の善惡　燈につき第一心得べきは蠟燭や瓦斯の焰の樣にチラ／＼動くのは眼の爲めに極くいけません。又熱の强きものは腦充血を起しますからよろしくない瓦斯の熱は餘程强い

もので是非共三尺ハ離れて置かなくてはいけません。電氣燈は一尺五寸離るれば殆ど熱はありませんで眼の爲めによろしい青色でありますから燈の中で一番よいです。次になるがよいかと云ふに當今一般に使はれるランプがよいです。ソコデ一寸注意いたすとは石油が水より重くてはいけません。烈氏の寒暖計で三十九度から四十八度迄の溫度で燃ればよいです。これを試驗するにハ鍋に水を入れ其の中に石油を入れ尤杯を浮べ寒暖計を入れソコデ火を燃すのです。ドン／＼もすと湯がわきます其内に石油が燃えます。その燃える時の熱が三十九度以上あればよろしいです。獨逸では攝氏廿一度より下の溫度で燃へるものハ賣るとをとめてあります。英國でハ廿二度八分です。

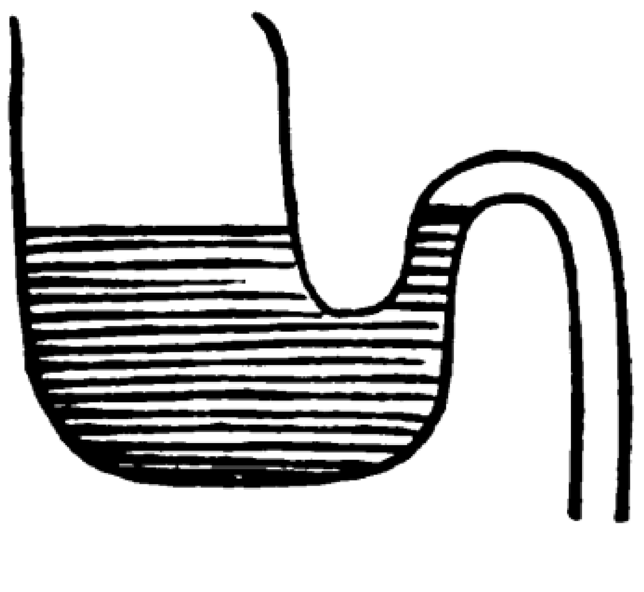
有害なる瓦斯　室内に點火する彼の瓦斯の中に硫化水素を含むときハ甚恐るべき害があります今此有毒の瓦斯の有無を試驗するには鉛糖を紙に浸し瓦斯に觸れしめて褐色に變ずれは此有毒瓦斯の含んで居る證據です。又瓦斯の中に有毒なる酸化炭素を含んで居りますから若し不注意で螺旋を開けた儘點火しませんときには此酸化炭素か室内に滿ちますから點火するときの外螺旋を開けてはなりせまん万一瓦斯管に割目のあるときは隨分危險で室内がプンと臭がするやうなときには瓦斯の爲に打殺さるゝ事があります。

適當なる燈火　されば如何なる燈火が人生に適當なりやといふに（第一）充分の光を有するものならざるべからず（第二）併しながらギラ／＼する光はよろしからず又室内の溫度を變ずる程強きものはよろしからず（第三）爛ちて定まらさる光ハ目に害あり（第四）室内の空氣を惡しくする光あるべからず。以上の四ケ條に合格する燈火は最良のものです。電氣燈は最多く此箇條に合格いたしますから最良のものです。電氣燈は室内の溫度を變せず空氣を惡くせず其上健康に利益あるとは次の試驗で分ります。一の植物を取り晝間は日光に曝し夜間は電氣燈を點したる室内に置くときは夜間暗室に置くよりも生長が早うムいます。して見れは電氣燈ハ此點に於てハ日光と仝し効用があります。蝌蚪は日光なしには決して蛙にまで出世ハ出來ません。人間も薄暗き室又は暗室に居りますれは頭が重くなり又ハ病氣を引起します。殊に小供を暗き室に入れ置くは甚害があります。夫ゆゑ晝間は成るたけ多く日光を入れ夜間もまた適當の燈を點すことが必要です。西洋では室内を明るくすると同時に室内の空氣を換ゆる仕掛が出來てをりま

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

それは六ケしい事でない唯天井に孔を穿ち其直下に燈光を置くのです。そうすると室内の古き空氣ハ煖められて輕くなり上に升れば新しき空氣が室外から入り込みます此法で室内で一立方尺の瓦斯を燃やすときは千立方尺の空氣を室外へ出すヿが出來ます

便所の搆造　衞生學でハ話が兎角下へさがりお聞き苦うムいましやうが大切のヿですから暫く忍んで心を留めてお聽き下さい。汚物排洩の方法の行屆いた所でハ人間が長生をいたし行屆かぬ所でハ流行病が跋扈いたします。假に人口二十万人の國ありとせんに排洩法を實施せぬ時ニ死人の數が千人に付三十三人の割合の所排洩法を實施したる爲め大に減じて千人に二十五人の割合となるときは惣數の上でハ千六百人の死人を助けるヿになります。さて此恐るべき汚物の源はと申すと便所と下水です下水ハ前に委しく述べましたから玆では便所の話です六立方メートルの溜ニ汚物が半滿ちたるとき二十四時間ニ目方に積りて三千五百グラムの惡臭物を出します之を細別しますれば炭酸が千八百六十グラム「アムモニア」が三百四十グラム硫化水素が六グラムと其外ニ千二百五十グラムの有機物です何れも皆有毒なる惡臭物ばかりそれだから之を貯る便所は餘程心を用ゐて搆造せねばなりません。便所の臭氣を防ぐには水を用ゐると藥を用ゐるとの二法ありますが水を用ゐて臭氣を防ぐハ下圖の如く曲りたる管ェ水を滿たしめ用便了りたるとき更に此上ェ水を澆げば汚物ハ水と共ニ流れ去りて跡ニ淸水を留む此淸水の溜る間は不淨の溜より惡臭を送るヿはありません。西洋諸國の設管法の行屆いたる處では皆此仕掛になつてをります之を（Woter choee）水便所と申ます。しかしながら此仕掛ハ暖な場所でなければ行ハれません冬分管中の水が凍るやうな場所では其效能がムいません。



日本風の便所は隨分臭氣が高くして鼻向がなりませんがそれも其筈です臭氣を跋扈させるやうに出來てゐるのですもの無理ハありません。便所の中は殊更に通氣が良くなければありません窓は明を取る外に通氣をよくする積りで出來てをるのですが實際は通氣の爲にハありません。

廣告

●性命之友 毎月一回發行 一冊正價八錢（全國無遞送料）

社說、中外論說、問答評論、小說、公達、公私衛生會錄事、雜報、傳記、廣告、

今日は衛生の要務を盡すべき時なり、最も衛生を重んすべきの時なり、然るに世人は何か故に其本を忘れて末にのみ孜々するや、諺にも命有ての物種と、蓋し我身体を強健にしてこそ其欲する所の事業を仕遂げらる可けれ、衛生の道を守らずして、心を無限の、境域に走らす、恰も餓鬼の百貫を負ふて千里に歩まんとするが如く、誰か其出來得べきを知らん、我黨茲に憂ふる所ありて表題の如き雜誌を發行して大ホ我國衛生の進步を圖らんとす、江湖の兄弟姉妹の衆幸に購讀の榮を賜はれ

（賣捌或ハ通信ヲ望ム者ハ本社ヘ申込アレ）

發行所 京都府上京區第廿九組御所八幡町第貳拾四番戶 厚生社

毎月三回 教育及政治 毎五の日

○十月五日發兌第三號目次

○教育及政治●現今ホ於ける政治家の覺悟●後藤伯爵象二郎君●教育制度に一料を貢す●師範學校職員の服制●文部大臣の教育自理主義●法律思想の必要

○雜記●家屋改良私見●北米合衆國創建史論●半谷清壽氏の養蠶方法●歐米に於ける佛教の勢力●ワルデルシー將軍小傳●英京倫敦の事情一班●赤十字社ノ起原沿革及功程●題遊佃日記——流うき世の波

○新報●文部大臣の東北地方巡視●社長の出張●米國と支那●外患十件

（定價一冊金八錢十冊前金七十五錢郵税不要）

東京日本橋區本町二丁目三番地 東京教育社

●文明之母

毎月十五日發兌○定價九錢○見本一錢切手十枚○半年分五十二錢○一年分一圓○府外は外に郵税一錢づゝ

諸姉妹御渴望の雜誌文明之母第一號愈々發兌になりました・卷中の目次の重もなるものハ

社說 文明之母發行ル趣旨 論說 文明の母に父たるべき者は誰ぞ（中部秋香）○家政敎育論（中川重麗）家政 家屋構造法（田村勝貞）不思議の話（ヱム、生）文藝 方丈記講義（太田忠恕）露二十首（美妙齋主人）批評 女子教育論○交際論○木立○今世婦かゞみ 小說 女丈夫傑譚（山縣悌三郎譯）、水仙花（鐵筆將軍著）雜錄 アルバーチ侯夫人の傳○婦人服裝のモルモン宗他○其他數件 討議○日本之女學記者へ○雜報の面白きものも澤山あります、荀も文明を生む母となりたい方ハ此「文明之母」をお讀み遊ばさと少しは參考になる事もありませう○此「文明之母」の定價は眞の定價で御坐いまして定規通りの外ハ一厘も毫でも減きません御買ひ遊ばす方ホ却て御都合が宜しいてと思ひます

發行處 東京深川區諸町十三ばん地 生文社

大賣捌 東京本郷區元富士町二ばん地 盛春堂

忘れました ○本誌には一等金五圓。二等金二圓。三等本誌一年分四等本誌半年分の（懸賞題）があり升

我樂多文庫 第九號 十月十日發兌

遞信省認可

いらつめ第十四號目次

家政。小説。雑纂。流行。化粧。講義。文藝美術。論説。批評。餘興。月報。唱歌。
小兒育て方神童才女の談。
正本はむれッと。
人工の片輪。（支那婦人の足。並西洋人の足。（密畫入）
鐵柄の蝙蝠。
米國貴婦人間の日本風の流行。
毛を延はす奇法。
牛乳で顔を洗ふ可否。
用器畫稽古の仕法。
本歌取樣諸説。
花と花瓶との關係。
歌數自美妙。
唱歌　美妙。
新体詩＝重陽雌飾。
日本の婦人に望む。
新編紫史細評。
新作謎……（懸賞）。
ともしらが（樂譜付）

いらつめ第十五號目次

挿畫。家政。小説。講議。文藝美術。雑纂。近事批評。近刊批評。流行。化粧。通信問答。
天下奇觀ナイアガラ瀑布新圖石版
小供と物語本。
金銭を虐遇する習慣を小供に付ぬ事
帳簿を現に買物を現金に。
古器天鵞絨を新しくする法。
空行く月（第九回）。
用器畫稽古の新法（圖入）
正本ハムレット。
花のかをり。顔しらす。きのふは　ゆふべは。野生の花薔薇。
人工の片輪（西洋婦人の腹）（密畫入）
茶碗を打つて年齢を悟る奇術及其理。
渡邊鼎氏洋服採用の可否。
自由鏡初篇。
今古ひめかゞみ。
婦人言論の自由。
夏木立。
少女の帷子＝單もの＝阿波ちゞみ＝茶器の稽古＝若狹塗＝
梨子地の笄軸＝灯燈形のホヤ＝吊紗。
肉色を麗しい薄紅色にする法。顔の肌理にある汚物を去る法。
そばかすを去る法。
一、紫　令嬢へ＝寶石貴金屬の寓意〇二、秋野令嬢へ＝二件〇三　敷島さまへ＝最上の日本語典〇四　一條令嬢へ＝指輪のはきめ方＝花鳥の音色＝「いつくしき」と「うつくしき」
餘興。新作謎……（懸賞）
月報。
〇、五華園令嬢へ＝コルゲート商會の香水＝外四件〇六、あき子さまへ＝雅語徴字例の評〇七、つる子さまへ＝「ヲナモミ」の葉が色を白くするか〇八、岡山令嬢へ＝レースを洗ふ法〇九、雪枝さまへ＝姿見鏡を清くする法〇十、岡田さら子さまへ＝鐵のサビを取る法〇十一、翠畑令嬢へ＝病室の臭氣を去る諸法〇十二、花子令嬢へ＝ペンキの臭氣を去る法〇十三、甘露女史へ＝手輕即席粉製造

都の花

一冊代金拾錢（郵税金貳錢）
五冊代前金四十七錢（郵税金拾錢）拾冊代前金九拾錢（郵税金二拾錢）（廿冊代前金壹圓七拾錢（郵税金四十錢）

毎月二回第一第三日曜日發行

（第壹號は本月廿一日發行す）

都の花は文學の花たる小説脚本などを集めたる雑誌にて主として内國諸家の新作を載する外また外國作の飜譯をも掲げたり毎號含む所大凡五六種而もわずかに一回に止まらず二回三回に及べるもありたる畫工に依囑し彫刻も精を盡くし印刷も鮮を極めんとすされば春のあした秋の夕つれ〳〵を消さんにもてよなき玩びなるべく又當今の文學世界の有樣を知らんにも之を捨てゝ何をか見るべき

發行兼編輯人　中根淑　印刷人　山田武太郎
發行所　東京本町三丁目十七番地　金港堂

〇いらつめ代價一冊金八錢六冊（半年分）金四十五錢十二冊（壹ケ年分）金八十錢府外毎號郵税壹錢宛申受〇毎月十五日發兌
雑誌代ハ前金ニアラサレハ御送附不申候金子御差送ノ手續ハ郵便小爲替ナラハ神田郵便局トアル所ニ神田郵便局ト御記入ノ事幷ニ受取人氏名トアル所ニ神田區駿河臺南甲賀町八番地成美社ト御記入ノ事
〇廣告料一行五號文字二十七字詰金八錢〇十一行以上金七錢〇二十一行以上金六錢　但シ前金ノコト

發行兼編輯人　山田武太郎　印刷人　佐野忠吉

發行所　東京神田區駿河臺南甲賀町八番地　成美社